

# 令和3年度若桜町男女共同参画意識調査

## 調査結果報告書

## 調査の概要

### 1. 調査の目的

男女共同参画に関する町民の意識、意見等を把握し、今後の男女共同参画行政を推進するための基礎資料を得ることを目的とする。

### 2. 調査の方法

- |          |                      |
|----------|----------------------|
| (1) 調査対象 | 町内に居住する20歳から85歳までの男女 |
| (2) 調査地域 | 町内全域                 |
| (3) 調査客体 | 200（男女100ずつ）         |
| (4) 抽出方法 | 住民基本台帳からの無作為抽出       |
| (5) 調査方法 | 郵送法                  |
| (6) 調査期間 | 令和3年7月1日～令和3年7月21日   |
| (7) 実施主体 | 若桜町                  |

### 3. 回収結果

配布数	200
調査不能数	0
有効回収数	86
有効回収率	43.0%

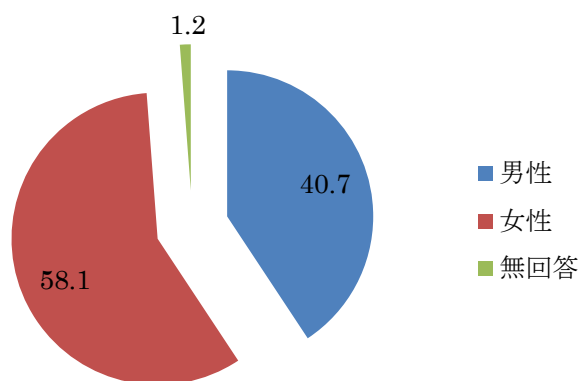
## 報告書のみかた

- 各設問での調査結果の数値は、集計対象者数「n」に対する回答率（％）で表記しています。回答率（％）は、小数点以下第2位を四捨五入し、第1位までを表記しています。また、限定設問（条件に合致した対象者のみが回答する設問）において得られる回答率（％）は、各選択肢に対する集計対象者に対する百分率です。
- 男女別の数値・図表においては「性別不明」の回答数は含んでいません。
- 複数回答設問（「3つまで」「いくつでも」というように一対象者が一つの設問に対し複数の選択肢をえらぶことができる設問）において得られる回答率（％）は、集計対象者に対する百分率です。このため、各回答率（％）の合計は100%を超えることがあります。
- 図表においては、読みやすさを目的として各設問における選択肢を適宜簡略化しているところがあります。設問文及び選択肢の詳細については、別添の「調査票」を参照してください。また、時系列比較を行っている部分は、過去に実施した同調査の結果を用いています。

## 回答者の属性

### 1. 性別

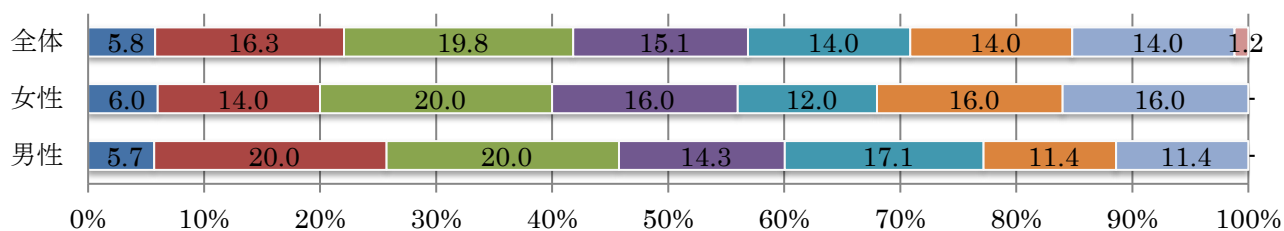
全体	女性	男性	答えたくない、わからない	性別不明
100	58.1	40.7	0.0	1.2



### 2. 年齢階層

回答者は女性は 40 歳代、男性は 30 歳から 40 歳代が多くなっています。

■ 20～29歳 ■ 30～39歳 ■ 40～49歳 ■ 50～59歳 ■ 60～69歳 ■ 70～79歳 ■ 80歳以上 ■ 無回答



区分	全体	構成比%	女性	構成比%	男性	構成比%	性別不明	構成比%
20 歳代	5	5.8	3	6.0	2	5.7	0	0
30 歳代	14	16.3	7	14.0	7	20.0	0	0
40 歳代	17	19.8	10	20.0	7	20.0	0	0
50 歳代	13	15.1	8	16.0	5	14.3	0	0
60 歳代	12	14.0	6	12.0	6	17.1	0	0
70 歳代	12	14.0	8	16.0	4	11.4	0	0
80 歳～	12	14.0	8	16.0	4	11.4	0	0
無回答	1	1.2	0	0	0	0	1	100.0
合計	86	100.0	50	100.0	35	100.0	1	100.0

### 3. 自身の職業

職業別では、「勤め人（正規）」、「勤め人（非正規）」の順に多くなっています。

区分	全体	構成比%	女性	構成比%	男性	構成比%	性別不明	構成比%
勤め人(正規)	31	36.0	13	26.0	18	51.4	0	0
勤め人(非正規)	20	23.3	15	30.0	5	14.3	0	0
農林漁業	2	2.3	2	4.0	0	0	0	0
自営・自由・家業	6	7.0	2	4.0	4	11.4	0	0
家事専業	6	7.0	6	12.0	0	0	0	0
その他	2	2.3	1	2.0	1	2.9	0	0
学生	0	0	0	0	0	0	0	0
無職	17	19.8	11	22.0	6	17.1	0	0
無回答	2	2.3	0	0	1	2.9	1	100.0
合計	86	100.0	50	100.0	35	100.0	1	100.0

※その他の回答では地方公務員、団体職員の記載あり

### 4. 配偶者の状況

回答者のうち、「結婚している」が70.9%と最も高くなっています。

区分	全体	構成比%	女性	構成比%	男性	構成比%	性別不明	構成比%
未婚	12	14.0	6	12.0	6	17.1	0	0
結婚	61	70.9	36	72.0	25	71.4	0	0
離別・死別	11	12.8	8	16.0	3	8.6	0	0
無回答	2	2.3	0	0	1	2.9	1	100.0
合計	86	100.0	50	100.0	35	100.0	1	100.0

### 5. 配偶者の職業

職業別では、「勤め人（正規）」が最も多く、次いで「勤め人（非正規）」「無職」の順に多くなっています。

区分	全体	構成比%	女性	構成比%	男性	構成比%
勤め人(正規)	26	42.6	16	44.4	10	40.0
勤め人(非正規)	10	16.4	4	11.1	6	24.0
農林漁業	7	11.5	7	19.4	0	0
自営・自由・家業	6	9.8	3	8.3	3	12.0
家事専業	2	3.3	0	0	2	8.0
その他	0	0	0	0	0	0
学生	0	0	0	0	0	0
無職	10	16.4	6	16.7	4	16.0
無回答	0	0	0	0	0	0
合計	61	100.0	36	100.0	25	100.0

## 6. 世帯類型

世帯類型では、「二世帯世帯」、「一世帯世帯」の順に多くなっています。

区分	全体	構成比%	女性	構成比%	男性	構成比%	性別不明	構成比%
単身世帯	6	7.0	4	8.0	2	5.7	0	0
一世帯世帯 (夫婦のみ)	28	32.6	13	26.0	15	42.9	0	0
二世帯世帯 (親と子)	32	37.2	20	40.0	12	34.3	0	0
三世帯世帯 (親と子と 孫)	14	16.3	10	20.0	4	11.4	0	0
その他の世帯	5	5.8	3	6.0	2	5.7	0	0
無回答	1	1.2	0	0	0	0	1	100.0
合 計	86	100.0	50	100.0	35	100.0	1	100.0

## 7. 末子の成長段階

社会人が、51.2%で最も高く、回答者の77.9%に子どもがいます。

区分	全体	構成比%	女性	構成比%	男性	構成比%	性別不明	構成比%
未就学児	11	12.8	7	14.0	4	11.4	0	0
小学生	7	8.1	3	6.0	4	11.4	0	0
中学生	2	2.3	1	2.0	1	2.9	0	0
高校生	1	1.2	0	0	1	2.9	0	0
大学生・大学院生	2	2.3	1	2.0	1	2.9	0	0
社会人	44	51.2	28	56.0	16	45.7	0	0
子どもなし	17	19.8	9	18.0	8	22.9	0	0
無回答	2	2.3	1	2.0	0	0	1	100.0
合 計	86	100.0	50	100.0	35	100.0	1	100.0

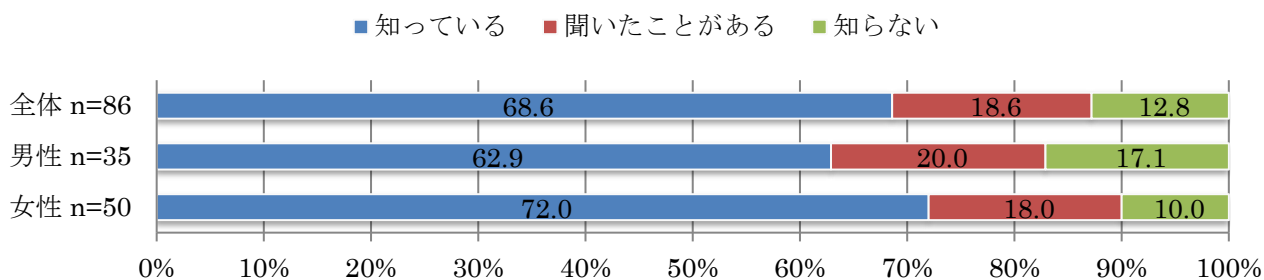
## 結果の概要

### 男女共同参画に関する用語

問1 あなたは、次の言葉について知っていますか。(それぞれ1つずつに○)

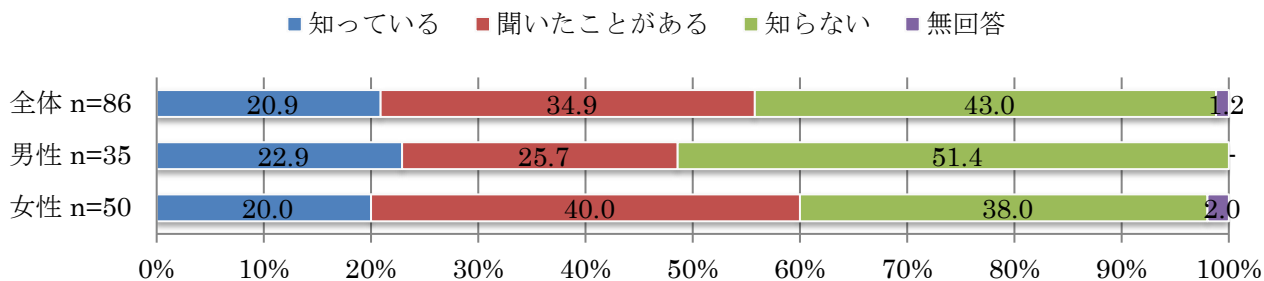
#### 用語の認知度

##### 男女共同参画社会



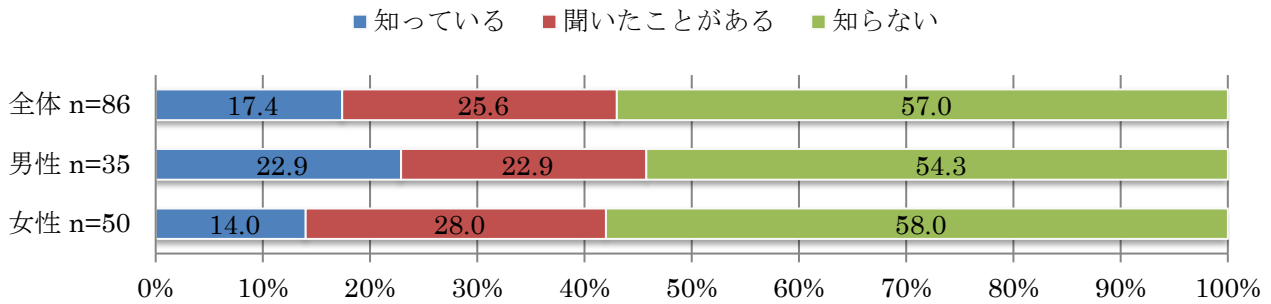
「男女共同参画社会」の認知度は、「知っている」と答えた割合が68.6%で、前回調査時の55.2%から13.4ポイント上がっています。「知っている」に「聞いたことがある」と答えた割合を加えて見ると、87.2%となり、鳥取県の86.4%に比べて若干高くなっています。

##### 若桜町男女共同参画推進条例



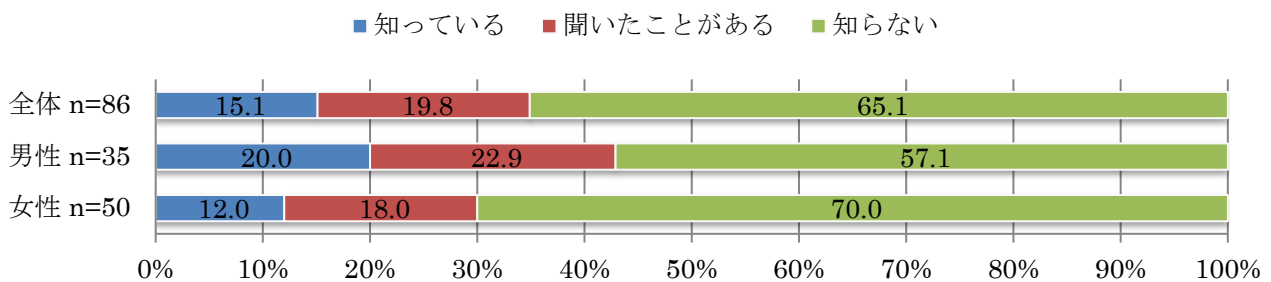
「若桜町男女共同参画推進条例」の認知度は、「知っている」と答えた割合が20.9%で、前回調査時の14.6%から6.3ポイント高くなっています。「知っている」に「聞いたことがある」と答えた割合を加えて見ると、55.8%で半数以上となっています。一方、43.0%の方が「知らない」と答えています。

## 第2次若桜町男女共同参画プラン



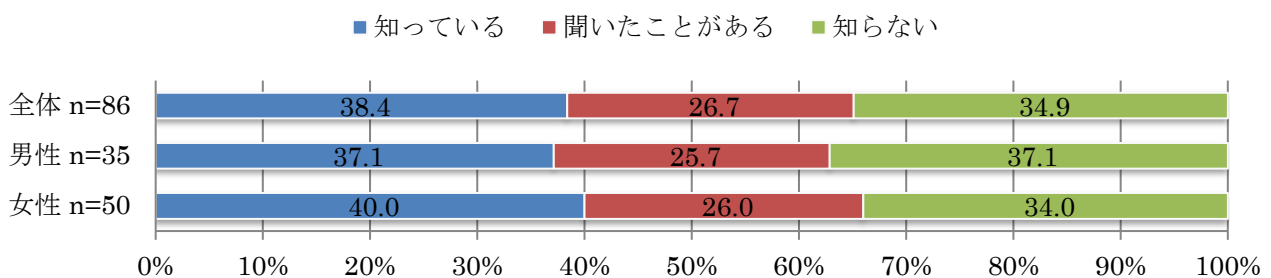
「第2次若桜町男女共同参画プラン」の認知度は、「知っている」と答えた割合が17.4%で前回調査時の13.5%から約4ポイント上がっています。「知っている」に「聞いたことがある」と答えた割合を加えて見ると43.0%となり、「知らない」の57.0%のほうが半数以上と高くなっています。

## ポジティブ・アクション (積極的改善措置)



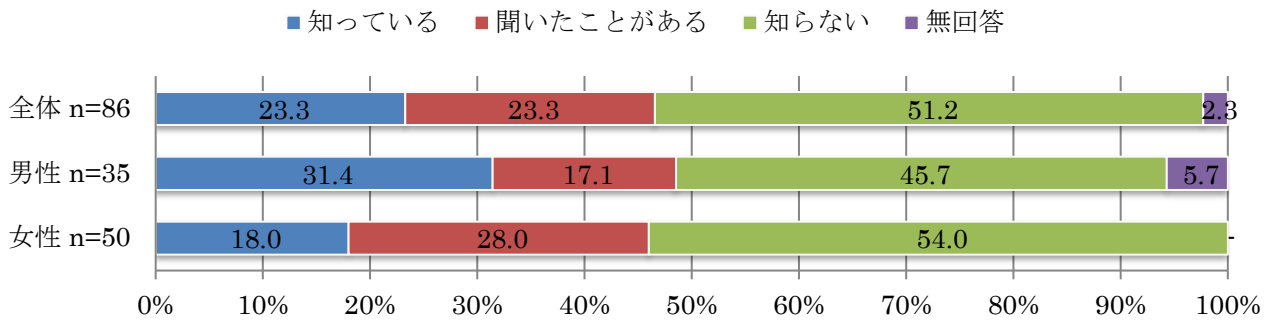
「ポジティブ・アクション」の認知度は、「知っている」と答えた割合が15.1%にとどまっていますが、前回調査時の6.3%の2倍以上となっています。「知っている」に「聞いたことがある」と答えた割合を加えて見ると、34.9%となり、「知らない」の65.1%のほうが半数以上と高くなっています。

## ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)



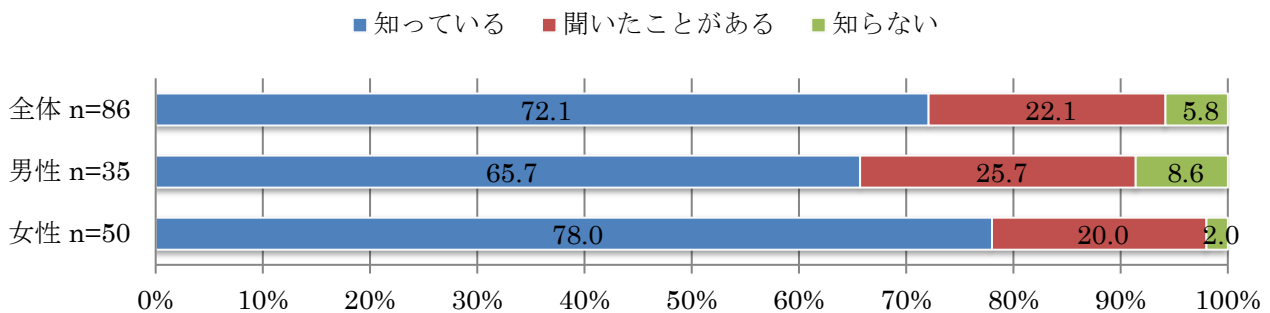
「ワーク・ライフ・バランス」の認知度は、「知っている」と答えた割合が38.4%で、前回調査時の27.1%から10ポイント以上高くなっています。「知っている」に「聞いたことがある」と答えた割合を加えて見ると、65.1%となり、鳥取県の66.7%に比べて低くなっています。

## ダイバーシティ社会



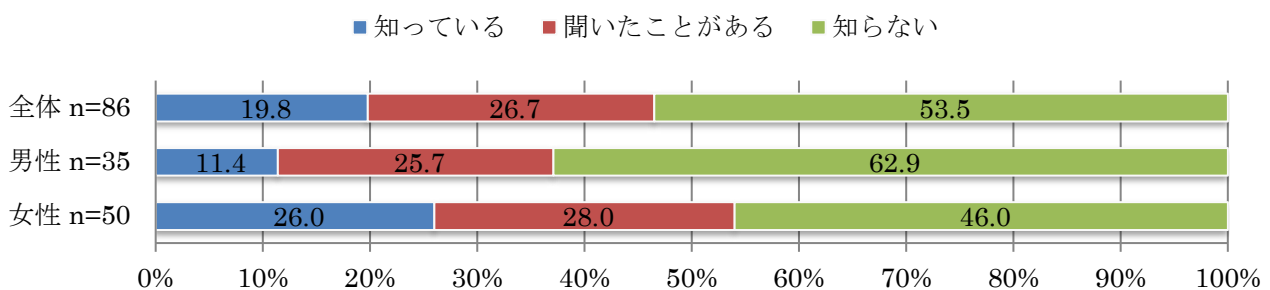
「ダイバーシティ社会」の認知度は、「知っている」と答えた割合が23.3%となっています。「知っている」に「聞いたことがある」と答えた割合を加えて見ると、46.6%となり、鳥取県の39.8%より高くなっています。また、「知らない」は51.2%と半数以上となっています。

## マタニティ・ハラスメント



「マタニティ・ハラスメント」の認知度は、「知っている」と答えた割合が72.1%となっています。「知っている」に「聞いたことがある」と答えた割合を加えて見ると、94.2%となり、鳥取県の92.6%より高くなっています。

## パタニティ・ハラスメント

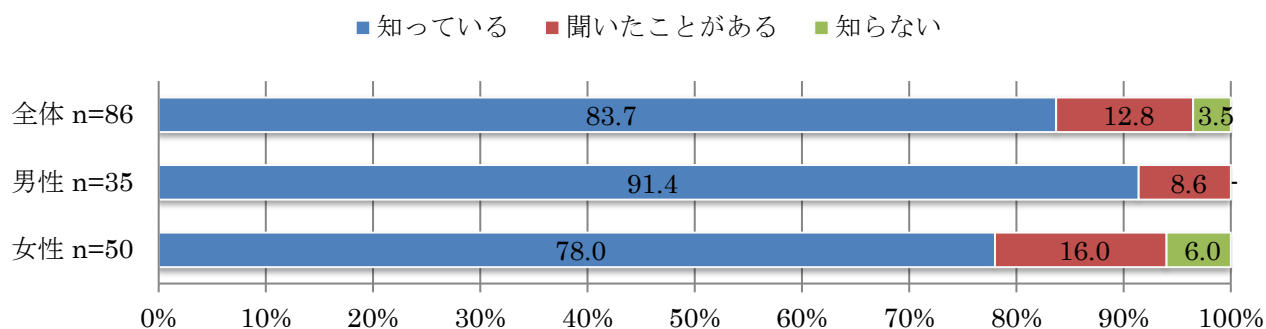


「パタニティ・ハラスメント」の認知度は、「知っている」と答えた割合が19.8%となっています。「知っている」に「聞いたことがある」と答えた割合を加えて見ると、46.5%となり、鳥取県の46.9%と同等となっています。

一方、「知らない」は53.5%と半数以上となっています。

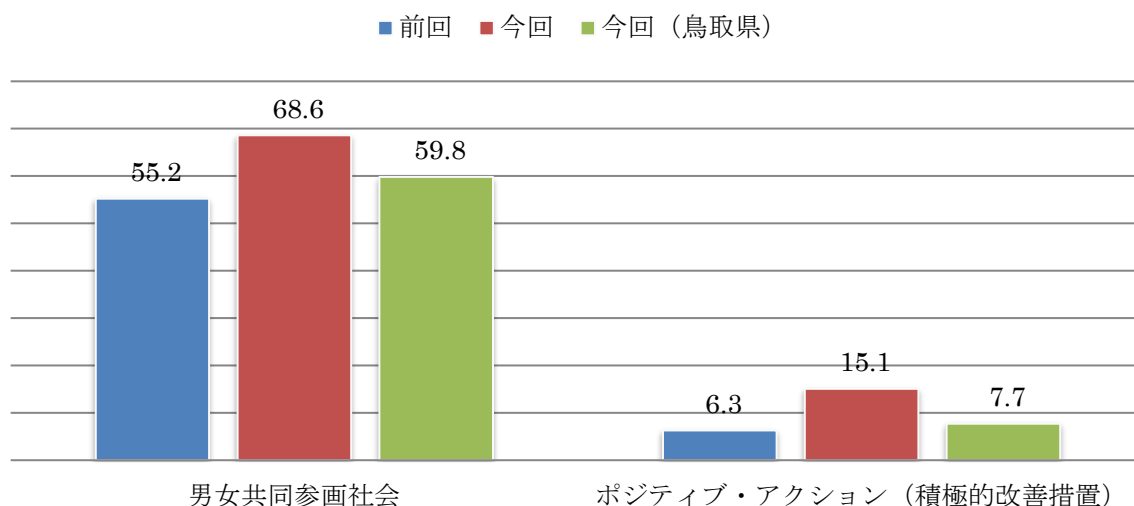


## ドメスティック・バイオレンス (DV)



「ドメスティック・バイオレンス」の認知度は、「知っている」と答えた割合が83.7%となっています。「知っている」に「聞いたことがある」と答えた割合を加えて見ると、96.5%となり、前回調査時の88.5%より8ポイント高くなっています。

## 用語の認知度 (過去の調査との比較)



前回調査の結果と比較して見ると、「男女共同参画社会」「ポジティブ・アクション (積極的改善措置)」の認知度はともに前回調査より上回っており、また、鳥取県の結果と比較しても認知度は高くなっています。

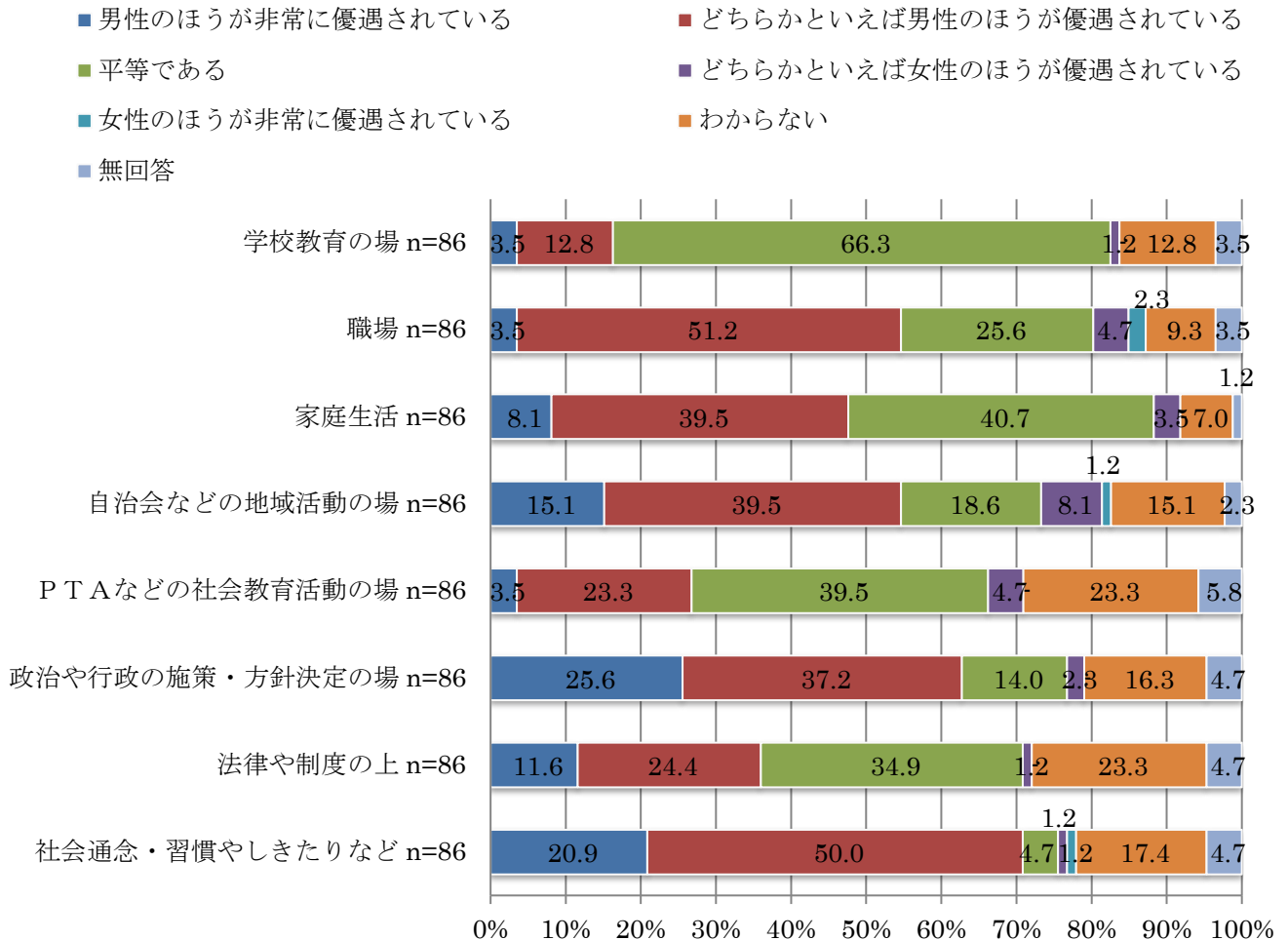
一方、「ポジティブ・アクション (積極的改善措置)」については、「知らない」が65.1%と半数以上を占めており、引き続き積極的な周知が必要です。

## 男女平等に関する意識

問2 次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

(それぞれ1つずつに○)

### 男女平等に関する意識



各分野における男女の地位の平等意識について聞いたところ、「平等である」と回答した割合が最も高い分野は「学校教育の場」で66.3%、次いで「家庭生活」が40.7%、「PTAなどの社会教育活動の場」が39.5%、「法律や制度の上」が34.9%となっています。「平等である」と回答した割合が最も低い分野は「社会通念・習慣やしきたりなど」で4.7%となっています。

「男性のほうが優遇されている」（「男性のほうが非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」）と回答した割合が最も高い分野は「社会通念・習慣やしきたりなど」で70.9%、次いで「政治や行政の施策・方針決定の場」の62.8%、「職場」の54.7%となっています。

「女性のほうが優遇されている」（「女性のほうが非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」）と回答した割合が最も高い分野は「自治会などの地域活動の場」で9.3%、次いで「職場」の7.0%、「PTAなどの社会教育活動の場」が4.7%となっています。

①学校教育の場（前回調査：学校教育）

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
男性のほうが非常に優遇	0.0	2.9	1.9	4.0	1.0	3.5
どちらかといえば男性のほうが優遇	4.7	8.6	5.7	16.0	5.2	12.8
平等である	74.4	74.3	67.9	60.0	70.8	66.3
どちらかといえば女性のほうが優遇	0.0	0.0	3.8	2.0	2.1	1.2
女性のほうが非常に優遇	0.0	0.0	1.9	0.0	1.0	0.0
わからない	18.6	11.4	13.2	14.0	15.6	12.8
無回答	2.3	2.9	5.7	4.0	4.2	3.5

学校教育の分野においては、「平等である」が前回に比べて減少しています。また、「男性のほうが非常に優遇」「どちらかといえば男性のほうが優遇」は増加しています。

②職場

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
男性のほうが非常に優遇	7.0	2.9	1.9	4.0	4.2	3.5
どちらかといえば男性のほうが優遇	46.5	51.4	28.3	50.0	36.5	51.2
平等である	27.9	22.9	35.8	28.0	32.3	25.6
どちらかといえば女性のほうが優遇	4.7	5.7	5.7	4.0	5.2	4.7
女性のほうが非常に優遇	4.7	5.7	0.0	0.0	2.1	2.3
わからない	7.0	8.6	15.1	10.0	11.5	9.3
無回答	2.3	2.9	13.2	4.0	8.3	3.5

職場の分野においては、「平等である」が前回に比べて減少しています。また、「どちらかといえば男性のほうが優遇」は全体として増加しており、特に女性が増加しております。

### ③家庭生活

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
男性のほうが非常に優遇	4.7	5.7	5.7	10.0	5.2	8.1
どちらかといえば男性のほうが優遇	46.5	34.3	35.8	44.0	40.6	39.5
平等である	32.6	48.6	32.1	34.0	32.3	40.7
どちらかといえば女性のほうが優遇	9.3	2.9	5.7	4.0	7.3	3.5
女性のほうが非常に優遇	0.0	0.0	3.8	0.0	2.1	0.0
わからない	4.7	8.6	11.3	6.0	8.3	7.0
無回答	2.3	0.0	5.7	2.0	4.2	1.2

家庭生活の分野においては、「平等である」が前回に比べて増加しており、特に男性が増加しています。また、「どちらかといえば男性のほうが優遇」は男性は前回に比べ減少、女性は増加しています。

### ④自治会などの地域活動の場（前回：町内会や地域活動の場）

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
男性のほうが非常に優遇	4.7	17.1	5.7	14.0	5.2	15.1
どちらかといえば男性のほうが優遇	39.5	31.4	39.6	46.0	39.6	39.5
平等である	25.6	25.7	24.5	12.0	25.0	18.6
どちらかといえば女性のほうが優遇	11.6	2.9	7.5	12.0	9.4	8.1
女性のほうが非常に優遇	2.3	2.9	1.9	0.0	2.1	1.2
わからない	11.6	20.0	15.1	12.0	13.5	15.1
無回答	4.7	0.0	5.7	4.0	5.2	2.3

地域の分野においては、「平等である」が前回に比べて減少しており、鳥取県の31.0%より大幅に低くなっています。また、男性・女性ともに「男性のほうが非常に優遇」が大幅に増加し、全体としても15.1%と鳥取県の6.1%より高くなっています。

⑤PTA などの社会教育活動の場 ※前回対比なし

	男性	女性	全体
男性のほうが非常に優遇	2.9	4.0	3.5
どちらかといえば男性のほうが優遇	17.1	28.0	23.3
平等である	45.7	36.0	39.5
どちらかといえば女性のほうが優遇	2.9	6.0	4.7
女性のほうが非常に優遇	0.0	0.0	0.0
わからない	25.7	20.0	23.3
無回答	5.7	6.0	5.8

PTA などの社会教育活動の場においては、男性・女性ともに「平等である」が最も高く、次いで「どちらかといえば男性のほうが優遇」が高くなっています。

⑥政治や行政の施策・方針決定の場

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
男性のほうが非常に優遇	4.7	28.6	15.1	24.0	10.4	25.6
どちらかといえば男性のほうが優遇	48.8	31.4	37.7	40.0	42.7	37.2
平等である	27.9	17.1	13.2	12.0	19.8	14.0
どちらかといえば女性のほうが優遇	0.0	0.0	1.9	4.0	1.0	2.3
女性のほうが非常に優遇	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
わからない	16.3	20.0	20.8	14.0	18.8	16.3
無回答	2.3	2.9	11.3	6.0	7.3	4.7

政治行政の分野においては、「平等である」は 14.0%と前回と比べて減少しており、鳥取県の 16.1%より低くなっています。一方、「男性のほうが非常に優遇」は男性・女性ともに増加しており、全体としても大幅に増加しています。また、「どちらかといえば男性のほうが優遇」は男性は減少、女性は増加しており、全体としては 37.2%と鳥取県の 44.2%より低くなっています。

⑦法律や制度の上

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
男性のほうが非常に優遇	2.3	8.6	7.5	14.0	5.2	11.6
どちらかといえば男性のほうが優遇	25.6	22.9	35.8	26.0	31.3	24.4
平等である	46.5	34.3	20.8	34.0	32.3	34.9
どちらかといえば女性のほうが優遇	9.3	2.9	3.8	0.0	6.3	1.2
女性のほうが非常に優遇	2.3	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
わからない	11.6	28.6	24.5	20.0	18.8	23.3
無回答	2.3	2.9	7.5	6.0	5.2	4.7

法律や制度の分野においては、「平等である」は男性は大幅に減少、女性は大幅に増加して、全体としては34.9%と前回に比べて増加しており、鳥取県の28.7%より高くなっています。また、「どちらかといえば男性のほうが優遇」は女性が大幅に減少して、全体としても24.4%と前回に比べて減少しており、鳥取県の35.7%より低くなっています。

⑧社会通念・習慣やしきたりなど

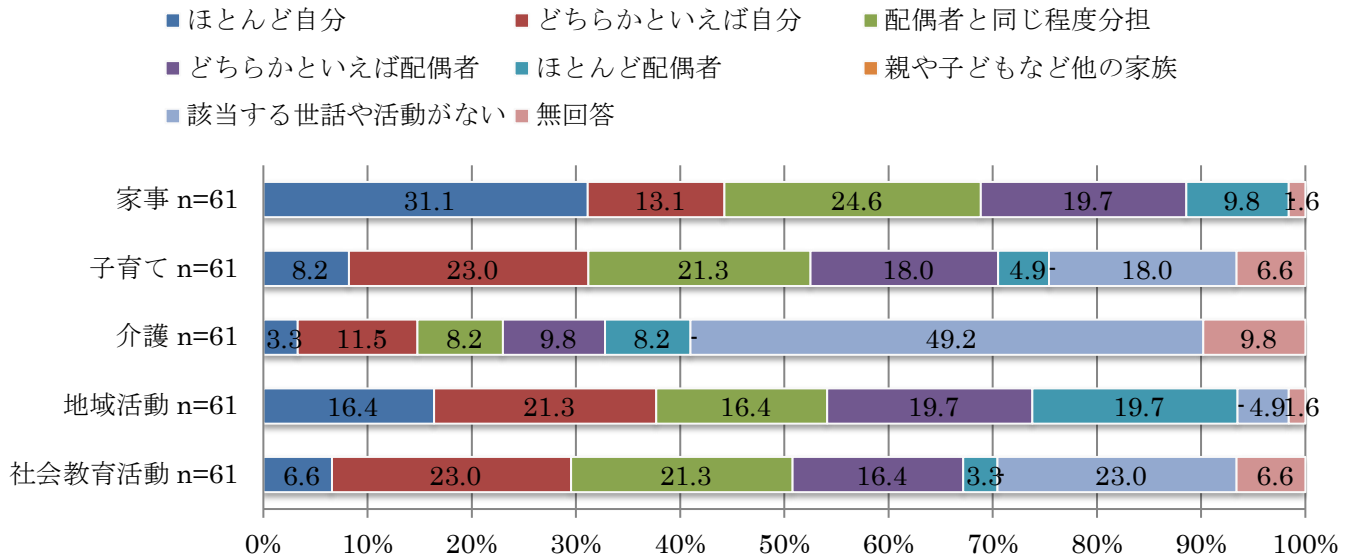
	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
男性のほうが非常に優遇	4.7	17.1	11.3	24.0	8.3	20.9
どちらかといえば男性のほうが優遇	65.1	45.7	52.8	52.0	58.3	50.0
平等である	14.0	8.6	7.5	2.0	10.4	4.7
どちらかといえば女性のほうが優遇	4.7	2.9	1.9	0.0	3.1	1.2
女性のほうが非常に優遇	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	1.2
わからない	9.3	22.9	17.0	14.0	13.5	17.4
無回答	2.3	2.9	9.4	6.0	6.3	4.7

通念習慣の分野においては、前回と比べて「平等である」が減少しており、鳥取県の11.7%より低くなっています。また、「男性のほうが非常に優遇」は大幅に増加しており、鳥取県の21.1%と同程度となっています。

家庭生活等に関する意識・考え方

問3 配偶者又はパートナーがいるかたにおたずねします。次にあげる家庭の仕事は、主にどなたが担当されていますか。(それぞれ1つずつに○)

家庭の仕事の分担状況（全体）



家事

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
ほとんど自分	2.8	4.0	61.8	50.0	31.4	31.1
どちらかといえば自分	2.8	0.0	17.6	22.2	10.0	13.1
配偶者と同じ程度分担	11.1	28.0	11.8	22.2	11.4	24.6
どちらかといえば配偶者	19.4	48.0	0.0	0.0	10.0	19.7
ほとんど配偶者	55.6	20.0	0.0	2.8	28.6	9.8
親や子どもなど他の家族	2.8	0.0	2.9	0.0	2.9	0.0
該当する世話や活動がない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	5.6	0.0	5.9	2.8	5.7	1.6

家事の分野においては、前回の調査と比べて「ほとんど自分」は女性が11.8ポイント減少しています。「配偶者と同じ程度分担」は男性・女性・全体でほぼ2倍の増加となっており、全体としては24.6%と鳥取県の11.2%より10ポイント以上高くなっています。また、「ほとんど配偶者」は前回と比べて男性が大幅に減少して、全体としても9.8%と大幅に減少しており、鳥取県の21.9%より10ポイント以上低くなっています。

## 子育て

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
ほとんど自分	0.0	0.0	18.2	13.9	8.8	8.2
どちらかといえば自分	0.0	4.0	30.3	36.1	14.7	23.0
配偶者と同じ程度分担	20.0	16.0	12.1	25.0	16.2	21.3
どちらかといえば配偶者	25.7	44.0	0.0	0.0	13.2	18.0
ほとんど配偶者	14.3	8.0	0.0	2.8	7.4	4.9
親や子どもなど他の家族	0.0	0.0	3.0	0.0	1.5	0.0
該当する世話や活動がない	25.7	20.0	15.2	16.7	20.6	18.0
無回答	14.3	8.0	21.2	5.6	17.6	6.6

子育ての分野においては、全体として女性が担っている割合が高くなっています。また、「配偶者と同じ程度分担」の割合は前回調査より増加しており、鳥取県の13.6%より高くなっています。

## 介護

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
ほとんど自分	2.9	0.0	8.8	5.6	5.9	3.3
どちらかといえば自分	2.9	0.0	14.7	19.4	8.8	11.5
配偶者と同じ程度分担	2.9	8.0	0.0	8.3	1.5	8.2
どちらかといえば配偶者	14.7	20.0	5.9	2.8	10.3	9.8
ほとんど配偶者	20.6	12.0	0.0	5.6	10.3	8.2
親や子どもなど他の家族	2.9	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0
該当する世話や活動がない	35.3	52.0	47.1	47.2	41.2	49.2
無回答	17.6	8.0	23.5	11.1	20.6	9.8

介護の分野においては、前回調査と比べて男性は、「ほとんど自分」「どちらかといえば自分」の割合が減少し、女性は「どちらかといえば自分」が増加しています。「配偶者と同じ程度分担」は男性・女性ともに増加しています。



## 地域活動

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
ほとんど自分	25.7	32.0	2.9	5.6	14.5	16.4
どちらかといえば自分	34.3	40.0	8.8	8.3	21.7	21.3
配偶者と同じ程度分担	25.7	12.0	32.4	19.4	29.0	16.4
どちらかといえば配偶者	2.9	4.0	23.5	30.6	13.0	19.7
ほとんど配偶者	2.9	8.0	14.7	27.8	8.7	19.7
親や子どもなど他の家族	0.0	0.0	2.9	0.0	1.4	0.0
該当する世話や活動がない	0.0	4.0	2.9	5.6	1.4	4.9
無回答	8.6	0.0	11.8	2.8	10.1	1.6

地域活動の分野においては、男性が担っている割合が高くなっています。また、「配偶者と同じ程度分担」の割合が前回調査より大幅に減少しています。

女性の「ほとんど自分」「どちらかといえば自分」は前回と同様に割合が低く、鳥取県の34.5%（鳥取県：「ほとんど自分」17.9%、「どちらかといえば自分」16.6%）より低くなっています。

## 社会教育活動（PTA など）※前回対比なし

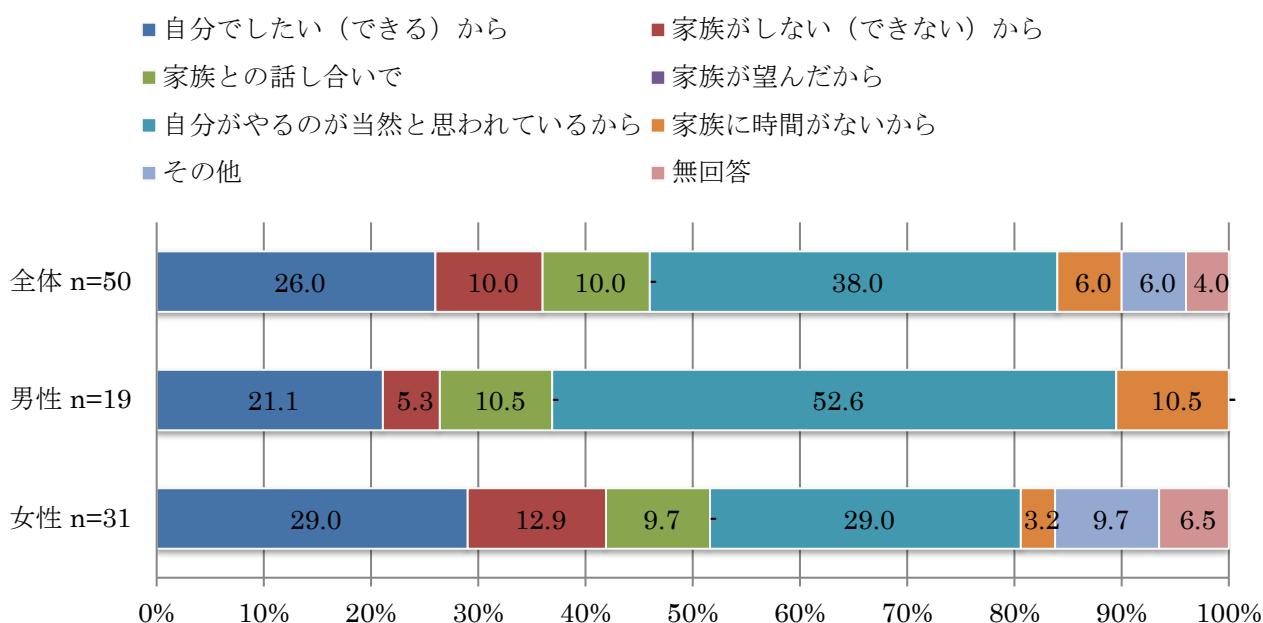
	男性	女性	全体
ほとんど自分	8.0	5.6	6.6
どちらかといえば自分	24.0	22.2	23.0
配偶者と同じ程度分担	16.0	25.0	21.3
どちらかといえば配偶者	20.0	13.9	16.4
ほとんど配偶者	4.0	2.8	3.3
親や子どもなど他の家族	0.0	0.0	0.0
該当する世話や活動がない	24.0	22.2	23.0
無回答	8.0	5.6	6.6

社会教育活動（PTA など）の分野においては、男性は「どちらかといえば自分」が最も高く、女性は「配偶者と同じ程度分担」が最も高くなっています。

全体として、「どちらかといえば自分」「配偶者と同じ程度分担」「どちらかといえば配偶者」が高くなっています。

問3-1 この分担はどのように決まりましたか。最も近いものを選んでください。  
(1つだけに○)

### 家庭の仕事の分担経緯（全体・性別）



家庭における仕事の分担（問3）について、「ほとんど自分」または「どちらかといえば自分」と答えた人に対し、現在の分担がどのように決まったのかについて聞いたところ、「自分がやるのが当然と思われているから」と答えた割合 38.0%が最も高くなっています。

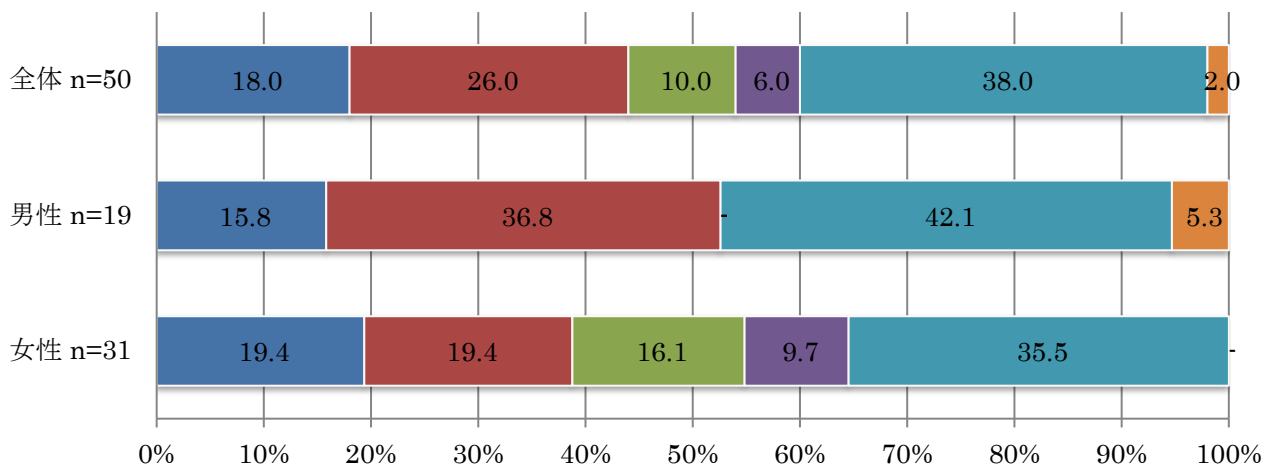
	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
自分でしたい（できる）から	14.3	21.1	16.1	29.0	15.3	26.0
家族がしない（できない）から	3.6	5.3	12.9	12.9	8.5	10.0
家族との話し合いで	10.7	10.5	3.2	9.7	6.8	10.0
家族が望んだから	3.6	0.0	6.5	0.0	5.1	0.0
自分がやるのが当然と思われているから	42.9	52.6	29.0	29.0	35.6	38.0
家族に時間がないから	0.0	10.5	19.4	3.2	10.2	6.0
その他	3.6	0.0	3.2	9.7	3.4	6.0
無回答	21.4	0.0	9.7	6.5	15.3	4.0

前回調査と比較して「自分でしたい（できる）から」が大幅に増加しています。また、鳥取県の調査では「自分でしたい（できる）から」は 16.0%となっており、鳥取県より高くなっています。

問3-2 現在の分担を全体的にみて、あなたは満足していますか。(1つだけに○)

### 家庭の仕事の分担に係る満足度 (全体・性別)

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■どちらともいえない ■無回答

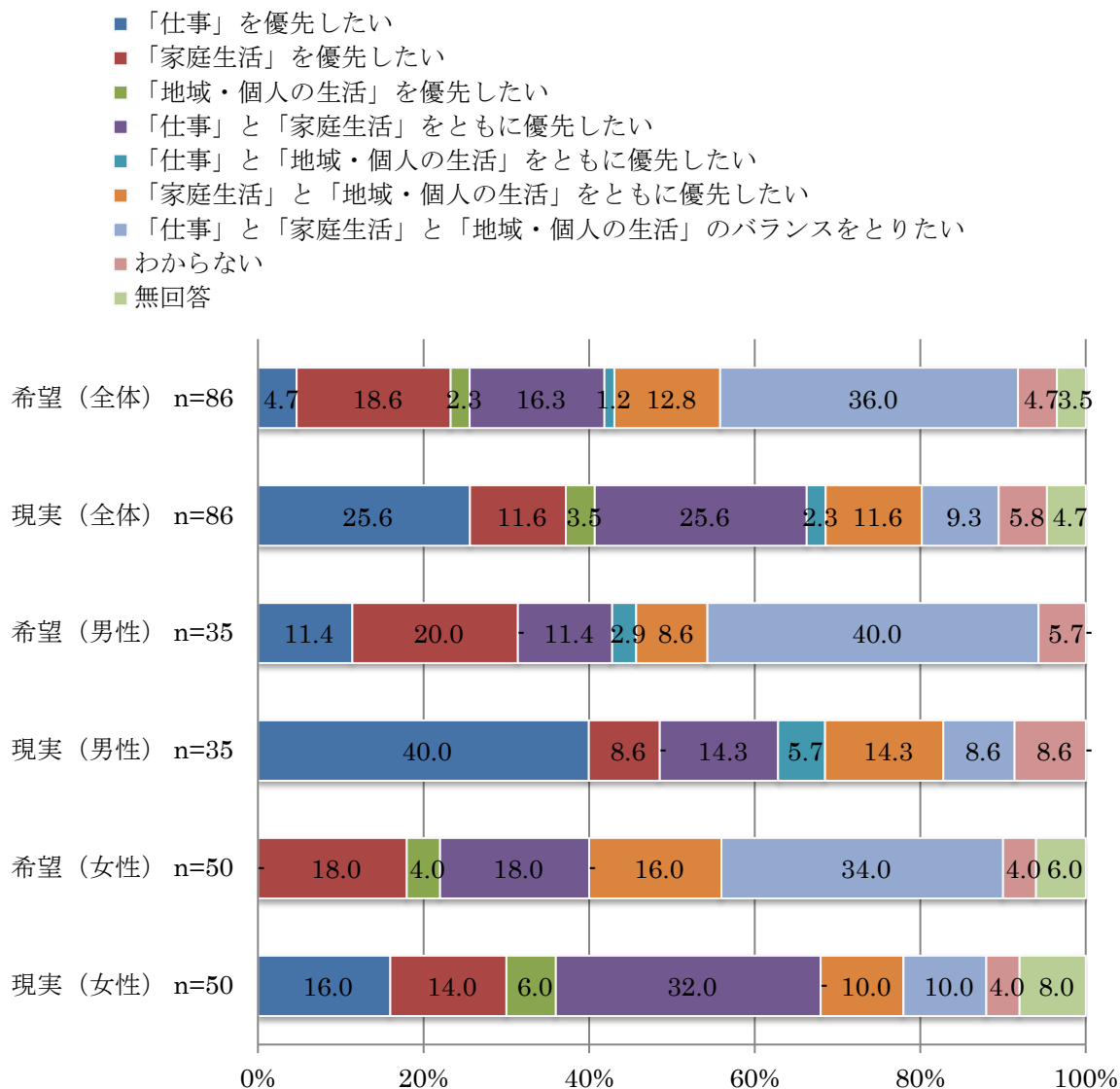


	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
満足	10.7	15.8	9.8	19.4	10.1	18.0
どちらかといえば満足	50.0	36.8	19.5	19.4	31.9	26.0
どちらかといえば不満	3.6	0.0	14.6	16.1	10.1	10.0
不満	3.6	0.0	4.9	9.7	4.3	6.0
どちらともいえない	17.9	42.1	26.8	35.5	23.2	38.0
無回答	14.3	5.3	24.4	0.0	20.3	2.0

現在の分担に満足しているかどうかについて、男性・女性ともに「満足」が増加していますが、女性は「どちらかといえば不満」「不満」も増加しています。

問4 あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度についておたずねします。(1つだけに○)

### 仕事と生活の調査に関する希望と現実 (全体・性別)



生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、『希望』については「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のバランスをとりたいが36.0%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先したいが18.6%となっていますが、『現実』は

「仕事」を優先している」「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」がともに25.6%と最も高くなっています。

『現実』として、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のバランスがとれている」は9.3% (希望：36.0%)、「家庭生活」を優先している」は11.6% (希望：18.6%)と希望と現実乖離がみられます。

## 希望

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
「仕事」を優先	4.7	11.4	1.9	0.0	3.1	4.7
「家庭生活」を優先	4.7	20.0	17.0	18.0	11.5	18.6
「地域・個人の生活」を優先	7.0	0.0	1.9	4.0	4.2	2.3
「仕事」と「家庭生活」を優先	30.2	11.4	22.6	18.0	26.0	16.3
「仕事」と「地域・個人の生活」を優先	2.3	2.9	1.9	0.0	2.1	1.2
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	11.6	8.6	9.4	16.0	10.4	12.8
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のバランス	27.9	40.0	26.4	34.0	27.1	36.0
わからない	4.7	5.7	9.4	4.0	7.3	4.7
無回答	7.0	0.0	9.3	6.0	8.3	3.5

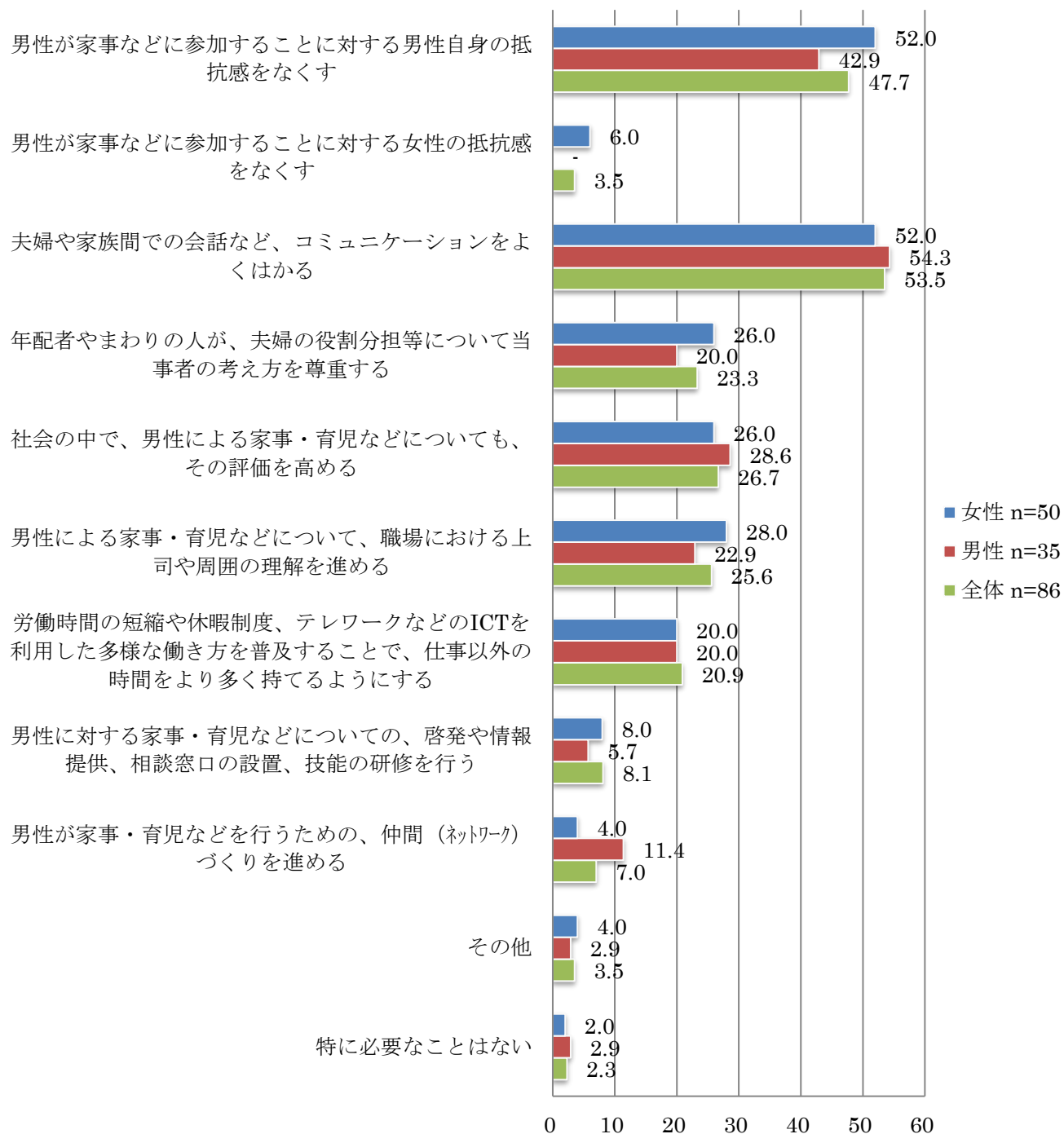
## 現実

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
「仕事」を優先	32.6	40.0	28.3	16.0	30.2	25.6
「家庭生活」を優先	7.0	8.6	18.9	14.0	13.5	11.6
「地域・個人の生活」を優先	4.7	0.0	3.8	6.0	4.2	3.5
「仕事」と「家庭生活」を優先	21.0	14.3	15.1	32.0	17.7	25.6
「仕事」と「地域・個人の生活」を優先	9.3	5.7	1.9	0.0	5.2	2.3
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	11.6	14.3	5.7	10.0	8.3	11.6
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のバランス	9.3	8.6	9.4	10.0	9.4	9.3
わからない	0.0	8.6	9.4	4.0	5.2	5.8
無回答	4.7	0.0	7.5	8.0	6.3	4.7

前回調査の結果と比較してみると、『希望』では「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のバランスをとりたい」、「家庭生活」を優先が増加し、特に男性の回答が大幅に増加しています。『現実』では、男性は「「仕事」を優先している」、女性は「「仕事」と「家庭生活」を優先している」が増加しています。

問5 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つ以内に○）

### 男性が家事等へ参加するのに必要なこと（全体・性別）



男性の家事等への参加に必要なことについて、「夫婦や家族間での会話など、コミュニケーションをよくはかる」が最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」となっています。

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす	28.9	42.9	44.9	52.0	37.9	47.7
男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす	5.3	0.0	10.2	6.0	8.0	3.5
夫婦や家族間での会話など、コミュニケーションをよくはかる	52.6	54.3	36.7	52.0	43.7	53.5
年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重する	21.1	20.0	16.3	26.0	18.4	23.3
R3：社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高める (前回：社会の中で、男性による家事などについても、その評価を高める)	18.4	28.6	26.5	26.0	23.0	26.7
男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進める	—	22.9	—	28.0	—	25.6
R3：労働時間の短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする (前回：労働時間の短縮や休暇を取得することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする)	39.5	20.0	40.8	20.0	40.2	20.9
R3：男性に対する家事・育児などについての、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行う (前回：男性が家事などに関心を高めるよう啓発や情報提供を行う)	10.5	5.7	16.3	8.0	13.8	8.1
R3:男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）づくりを進める (前回：子育てや介護、地域活動を行うための、男性の仲間（ネットワーク）づくりを進める)	7.9	11.4	6.1	4.0	6.9	7.0
その他	2.6	2.9	0.0	4.0	1.1	3.5
特に必要なことはない	5.3	2.9	4.1	2.0	4.6	2.3

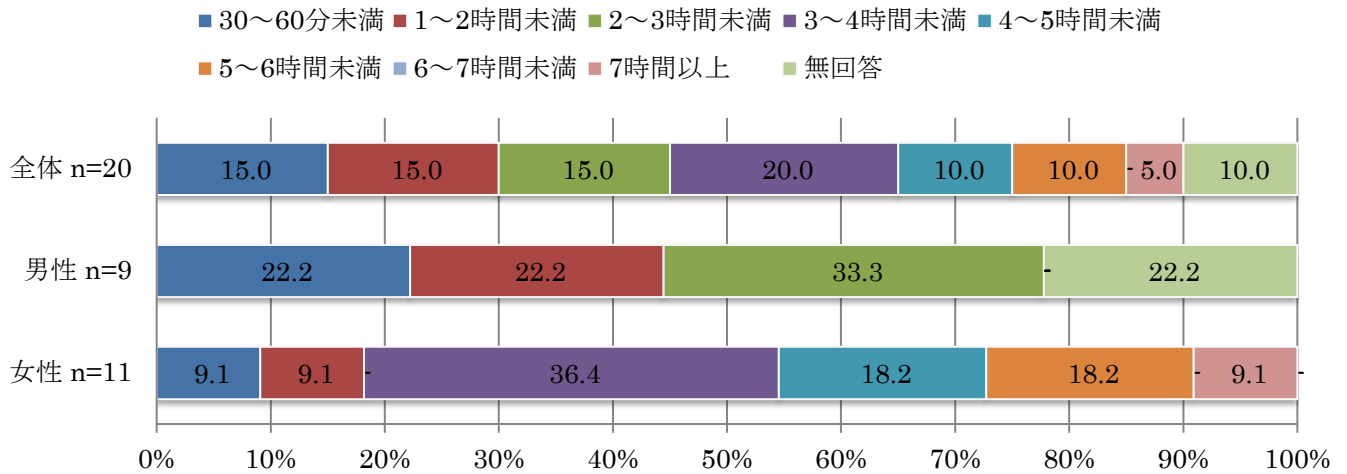
性別及び前回調査の結果と比較してみると、男性は「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」「社会の中で男性による家事・育児などについても、その評価を高める」が10ポイント以上増加している。

女性は「夫婦や家族間での会話など、コミュニケーションをよくはかる」「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重する」が大幅に増加しています。

【現在、中学生までの子どもがいる方におたずねします】

問6 あなたが家事・育児にかかる時間（1日平均）をお答えください。

### 家事・育児にかかる時間（1日平均）



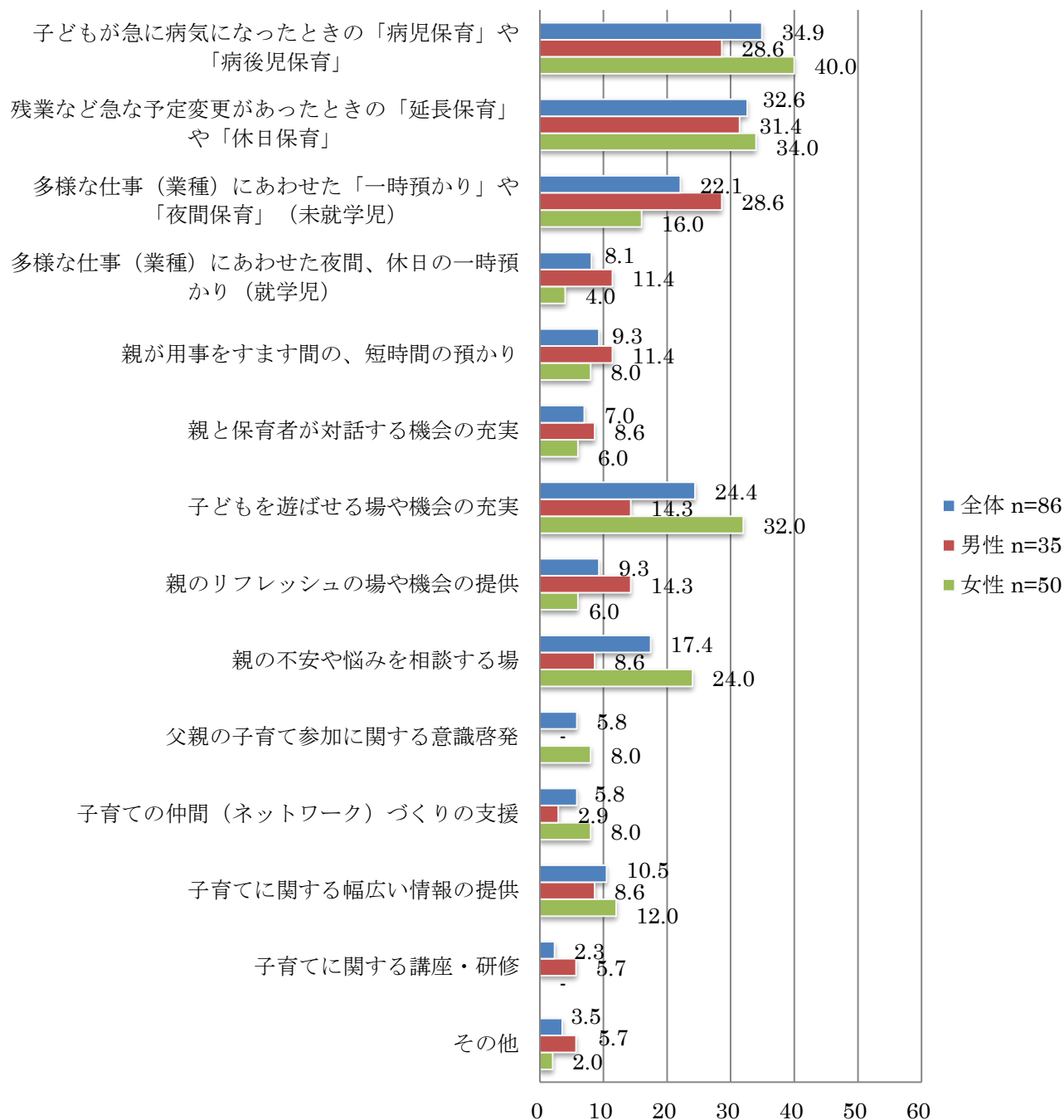
※0分、1～30分未満、6～7時間未満は回答0

家事・育児にかかる時間について、男性は「2～3時間未満」が最も高く、女性は「3～4時間未満」が最も高くなっている。



問7 あなたは保育サービスを含む子育て支援に、どのようなことを希望しますか。  
(3つ以内に○)

### 子育て支援に期待すること (全体・性別)



子育て支援にどのようなことを希望するかについては、「子どもが急に病気になったときの「病児保育」や「病後児保育」が34.9%で最も高く、次いで「残業など急な予定変更があったときの「延長保育」や「休日保育」が32.6%、「子どもを遊ばせる場や機会の充実」が24.4%となっています。

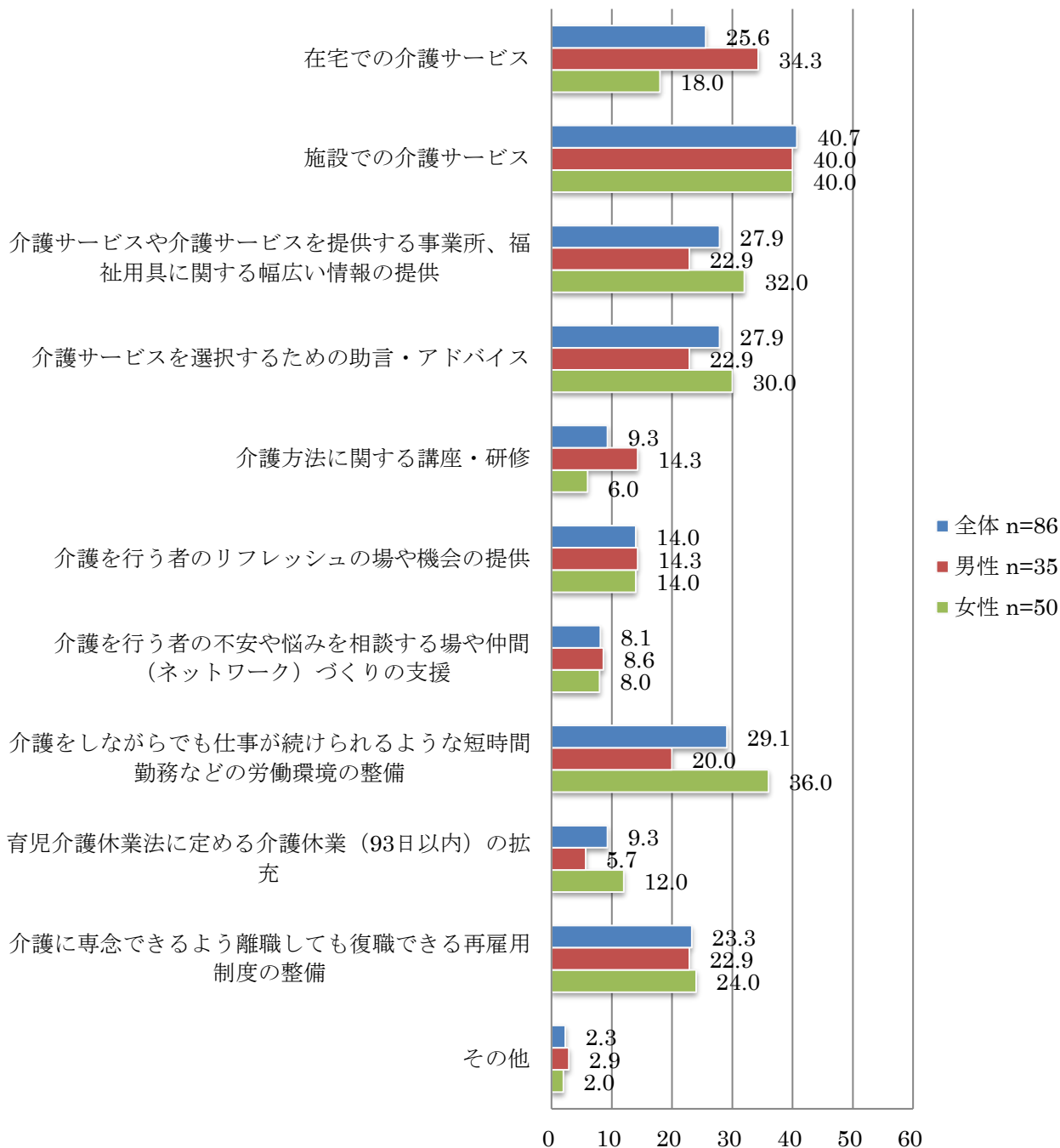
	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
子どもが急に病気になったときの「病児保育」や「病後児保育」	38.2	28.6	53.3	40.0	46.8	34.9
残業など急な予定変更があったときの「延長保育」や「休日保育」	44.1	31.4	44.4	34.0	44.3	32.6
R3:多様な仕事（業種）にあわせた「一時預かり」や「夜間保育」（未就学児） （前回：親の働き方にあわせた「一時預かり」や「夜間保育」）	41.2	28.6	44.4	16.0	43.0	22.1
多様な仕事（業種）にあわせた夜間、休日の一時預かり（就学時）	—	11.4	—	4.0	—	8.1
親が用事をすませる間の、短時間の預かり	5.9	11.4	11.1	8.0	8.9	9.3
親と保育者が対話する機会の充実	17.6	8.6	2.2	6.0	8.9	7.0
子どもを遊ばせる場や機会の充実	8.8	14.3	11.1	32.0	10.0	24.4
親のリフレッシュの場や機会の提供	11.8	14.3	6.7	6.0	8.9	9.3
親の不安や悩みを相談する場	20.6	8.6	35.6	24.0	29.1	17.4
父親の子育て参加に関する意識啓発	8.8	0.0	2.2	8.0	5.1	5.8
子育ての仲間（ネットワーク）づくりの支援	23.5	2.9	15.6	8.0	19.0	5.8
子育てに関する幅広い情報の提供	11.8	8.6	13.3	12.0	12.7	10.5
子育てに関する講座・研修	0.0	5.7	4.4	0.0	2.5	2.3
その他	2.9	5.7	4.4	2.0	3.8	3.5

性別及び前回調査の結果と比較してみると、男性は「残業など急な予定変更があったときの「延長保育」や「休日保育」が最も高く、女性は、「子どもが急に病気になったときの「病児保育」や「病後児保育」が最も高くなっています。

全体では、「子どもを遊ばせる場や機会の充実」が前回より大幅に増加しており、特に女性の回答が増加しています。一方、「子どもが急に病気になったときの「病児保育」や「病後児保育」、「残業など急な予定変更があったときの「延長保育」や「休日保育」、「多様な仕事（業種）にあわせた「一時預かり」や「夜間保育」（未就学児）」、「親の不安や悩みを相談する場」、「子育ての仲間（ネットワーク）づくりの支援」は前回調査より10ポイント以上減少しています。

問8 あなたが家族の介護をする（している）場合、どのような支援を希望しますか。  
 （3つ以内に○）

介護支援に期待すること（全体・性別）



介護支援にどのようなことを希望するかについては、「施設での介護サービス」が最も高く、次いで「介護をしながらでも仕事が続けられるような短時間勤務などの労働環境の整備」となっています。

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
R3：在宅での介護サービス (前回：自宅に訪問してもらう在宅介護サービス)	50.0	34.3	38.8	18.0	43.7	25.6
R3：施設での介護サービス (前回：自宅から施設に通って受ける在宅介護サービス)	34.2	40.0	28.6	40.0	31.0	40.7
介護サービスや介護サービスを提供する事業所、福祉用具に関する幅広い情報の提供	15.8	22.9	32.7	32.0	25.3	27.9
介護サービスを選択するための助言・アドバイス	23.7	22.9	30.6	30.0	27.6	27.9
介護方法に関する講座・研修	18.4	14.3	14.3	6.0	16.1	9.3
介護を行う者のリフレッシュの場や機会の提供	7.9	14.3	16.3	14.0	12.6	14.0
介護を行う者の不安や悩みを相談する場や仲間（ネットワーク）づくりの支援	13.2	8.6	30.6	8.0	23.0	8.1
介護をしながらでも仕事が続けられるような短時間勤務などの労働環境の整備	13.2	20.0	34.7	36.0	25.3	29.1
R3：育児介護休業法に定める介護休業（93日以内）の拡充 (前回：介護に専念できるような介護休業制度の充実)	15.8	5.7	26.5	12.0	21.8	9.3
介護に専念できるよう離職しても復職できる再雇用制度の整備	—	22.9	—	24.0	—	23.3
その他	0.0	2.9	4.1	2.0	2.3	2.3

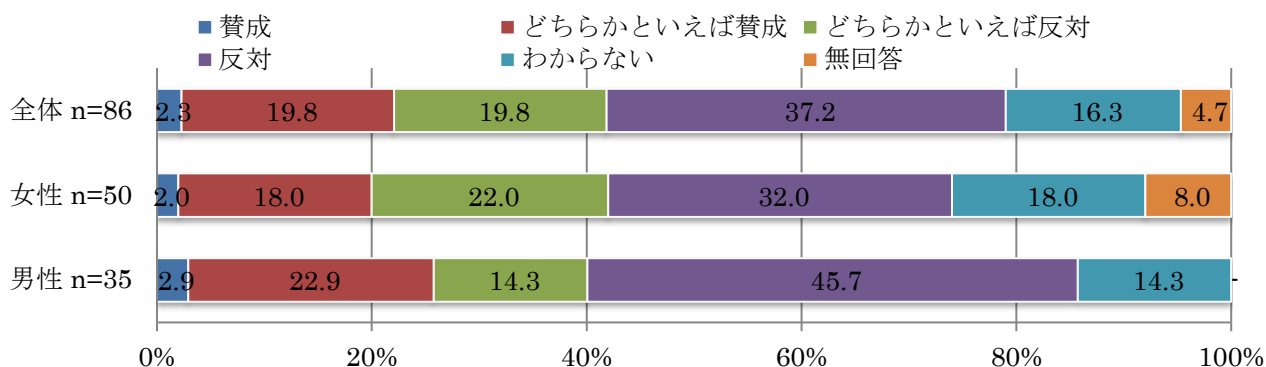
性別及び前回調査の結果と比較してみると、男性は「施設での介護サービス」が最も高く、次いで「在宅での介護サービス」となっています。また、女性においても「施設での介護サービス」が最も高く、10ポイント以上増加しています。

一方、全体として「在宅での介護サービス」、「介護方法に関する講座・研修」、「介護を行う者の不安や悩みを相談する場や仲間（ネットワーク）づくりの支援」、「育児介護休業法に定める介護休業（93日以内）の拡充」は希望として減少しています。

男女の就労について

問9 次にあげる考え方について、あなたはどのように思いますか。(それぞれ1つだけに○)

男性は外で働き、女性は家庭を守る



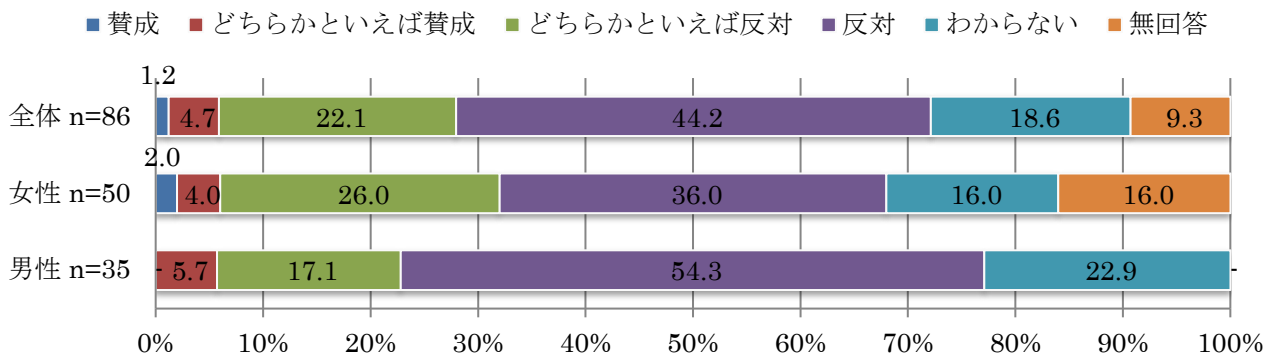
『男性は外で働き、女性は家庭を守る』という考え方について、『賛成』と答えた割合が22.1%（「賛成」2.3%+「どちらかといえば賛成」19.8%）（鳥取県：40.0%）、『反対』と答えた割合が57.0%（「反対」37.2%+「どちらかといえば反対」19.8%）（鳥取県：46.3%）となっています。

性別でみると『賛成』（男性25.8%、女性20.0%）（鳥取県：男性47.8%、女性34.1%）は男性のほうが5.8%高く、『反対』（男性60.0%、女性54.0%）（鳥取県：男性40.4%、女性50.9%）で男性のほうが6.0%高くなっています。

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
賛成	2.3	2.9	9.4	2.0	6.3	2.3
どちらかといえば賛成	44.2	22.9	28.3	18.0	35.4	19.8
どちらかといえば反対	7.0	14.3	17.0	22.0	12.5	19.8
反対	23.3	45.7	18.9	32.0	20.8	37.2
わからない	9.3	14.3	13.2	18.0	11.6	16.3
無回答	14.0	0.0	13.2	8.0	13.5	4.7

前回の調査と比較してみると、男性は『賛成』（46.5%→25.8%）、『反対』（30.3%→60.0%）、女性は『賛成』（37.7%→20.0%）、『反対』（35.9%→54.0%）と男性・女性ともに「賛成」は減少、「反対」は増加しています。

## 女性は外で働き、男性は家庭を守る



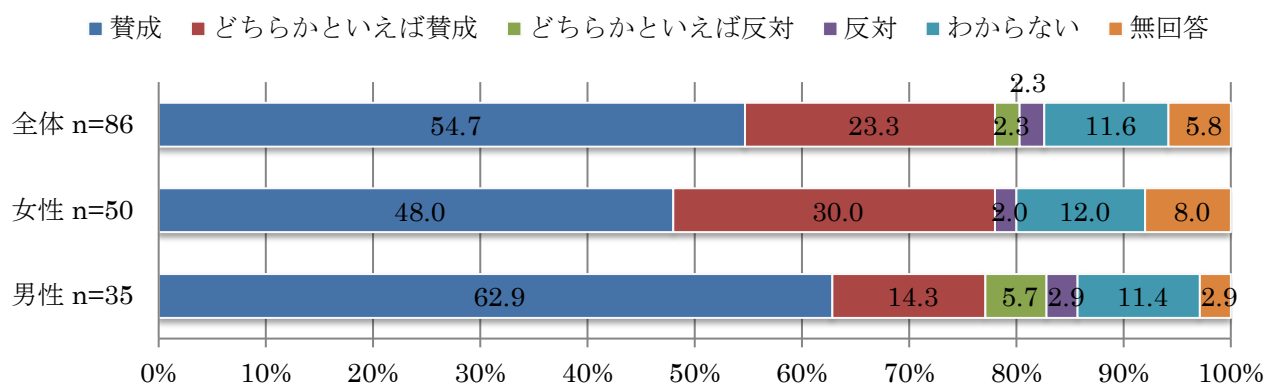
「女性は外で働き、男性は家庭を守る」という考え方について聞いたところ、『賛成』と答えた割合が 5.9%（「賛成」1.2%＋「どちらかといえば賛成」4.7%）、『反対』と答えた割合が 66.3%（「反対」44.2%＋「どちらかといえば反対」22.1%）となっています。

性別で見ると、『賛成』（男性 5.7%、女性 6.0%）は男性と女性が同等、『反対』（男性 71.4%、女性 62.0%）は男性のほうが高くなっています。

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
賛成	4.7	0.0	5.7	2.0	3.1	1.2
どちらかといえば賛成	0.0	5.7	5.7	4.0	5.2	4.7
どちらかといえば反対	34.9	17.1	24.5	26.0	29.2	22.1
反対	32.6	54.3	30.2	36.0	31.3	44.2
わからない	7.0	22.9	17.0	16.0	12.5	18.6
無回答	20.9	0.0	17.0	16.0	18.9	9.3

前回の調査と比較してみると、全体として「反対」は 10 ポイント以上増加して 44.2% となり、鳥取県の 37.3% より高くなっています。「反対」は特に男性が 20 ポイント以上の増加しており、鳥取県の男性の 36.7% より高くなっています。

## 男性も女性も外で働き、ともに家庭を守る



「男性も女性も外で働く」という考え方について聞いたところ、『賛成』と答えた割合が、78.0%（「賛成」54.7%+「どちらかといえば賛成」23.3%）、『反対』と答えた割合が4.6%（「反対」2.3%+「どちらかといえば反対」2.3%）となっています。

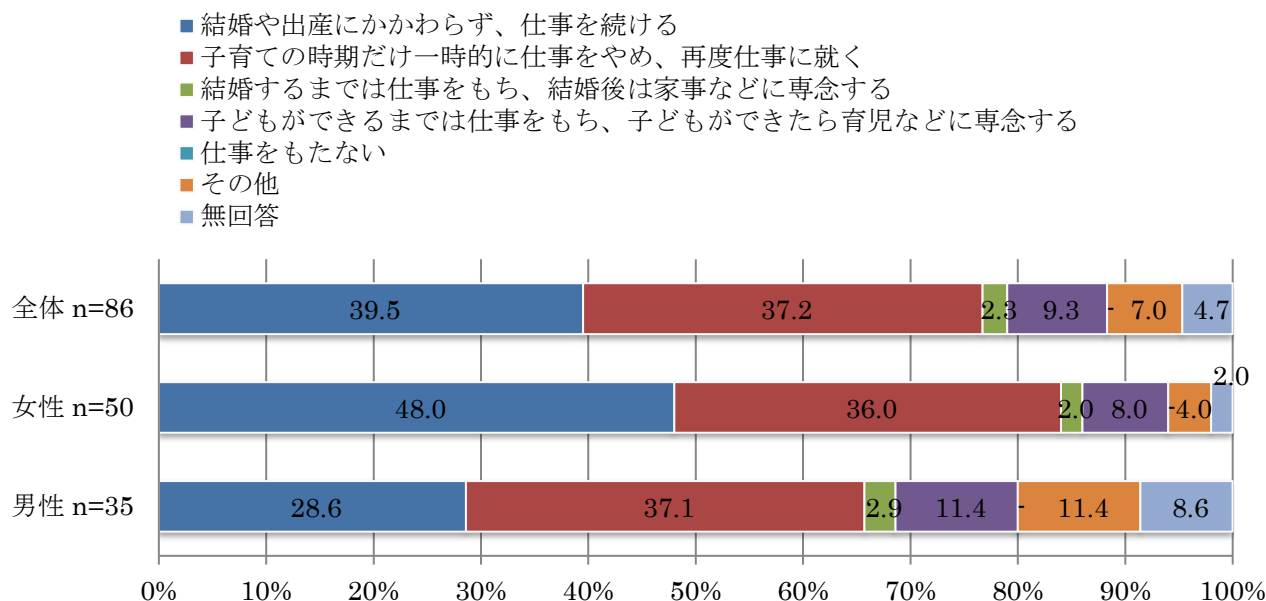
性別で見ると、『賛成』（男性77.2%、女性78.0%）、『反対』（男性8.6%、女性2.0%）で、ともに男性のほうが高くなっています。

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
賛成	30.2	62.9	30.2	48.0	30.2	54.7
どちらかといえば賛成	32.6	14.3	30.2	30.0	31.3	23.3
どちらかといえば反対	11.6	5.7	1.9	0.0	6.3	2.3
反対	2.3	2.9	1.9	2.0	2.1	2.3
わからない	9.3	11.4	17.0	12.0	13.5	11.6
無回答	14.0	2.9	18.9	8.0	16.7	5.8

前回の調査と比較してみると、「賛成」は全体で20ポイント以上増加して、男性で30ポイント以上の増加、女性で10ポイント以上の増加となっており、全体として鳥取県の50.3%より高くなっています。一方、「どちらかといえば反対」は全体で減少しており、特に男性の回答が減少しています。

問10 女性の働き方について、あなたはどのように思いますか。(1つだけに○)

### 女性の働き方について



女性の働き方について、どう思うかについて、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が39.5%で最も高く、次いで、「子育ての時期だけ一時的に仕事をやめ、再度仕事に就く」が37.2%となっています。

性別でみると、女性は「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が最も高く、男性は「子育ての時期だけ一時的に仕事をやめ、再度仕事に就く」が最も高くなっています。

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける	23.3	28.6	20.8	48.0	21.9	39.5
子育ての時期だけ一時的に仕事をやめ、再度仕事に就く	39.5	37.1	37.7	36.0	38.5	37.2
結婚するまでは仕事をもち、結婚後は家事などに専念する	9.3	2.9	3.8	2.0	6.3	2.3
子どもができるまでは仕事をもち、子どもができたら育児などに専念する	9.3	11.4	22.6	8.0	16.7	9.3
仕事をもたない	0.0	0.0	1.9	0.0	1.0	0.0
その他	7.0	11.4	7.5	4.0	7.3	7.0
無回答	11.6	2.9	5.7	4.0	8.3	3.5

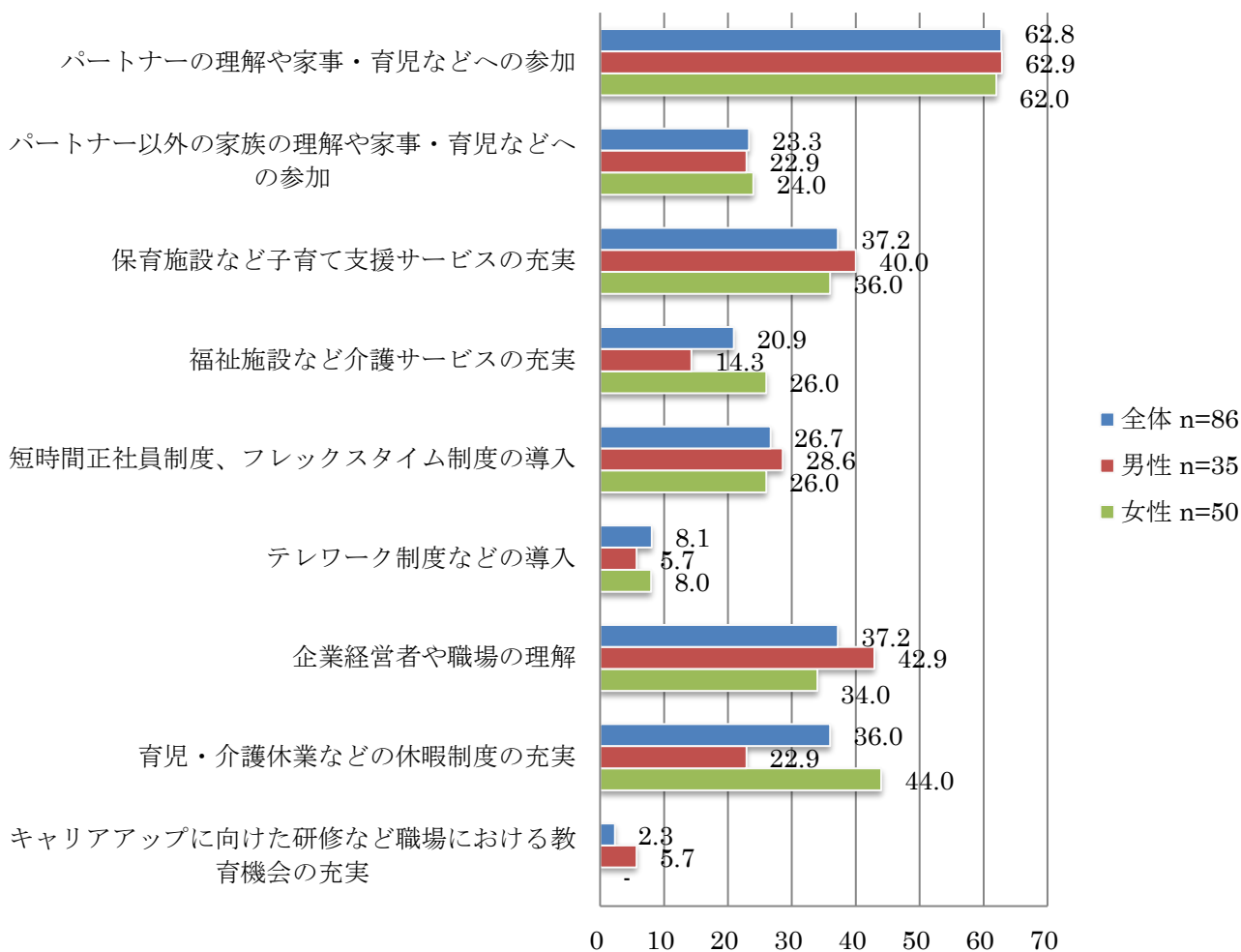
前回の調査と比較してみると、全体として「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が10ポイント以上増加して、鳥取県の30.6%より高くなっており、特に女性が増加しています。一方、「子どもができるまでは仕事をもち、子どもができたら育児などに専念す



る」は大幅に減少しており、鳥取県の 11.4%より低く、特に女性の回答が減少しています。

問11 あなたは、女性が結婚・出産、育児や介護によって退職をせずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つ以内に○）

### 女性が就業継続のために必要なこと



女性が結婚や出産、育児や介護によって退職をせずに働き続けるために必要なことについて、「パートナーの理解や家事・育児などへの参加」が62.8%で最も高く、次いで「保育施設など子育て支援サービスの充実」「企業経営者や職場の理解」が37.2%となっています。

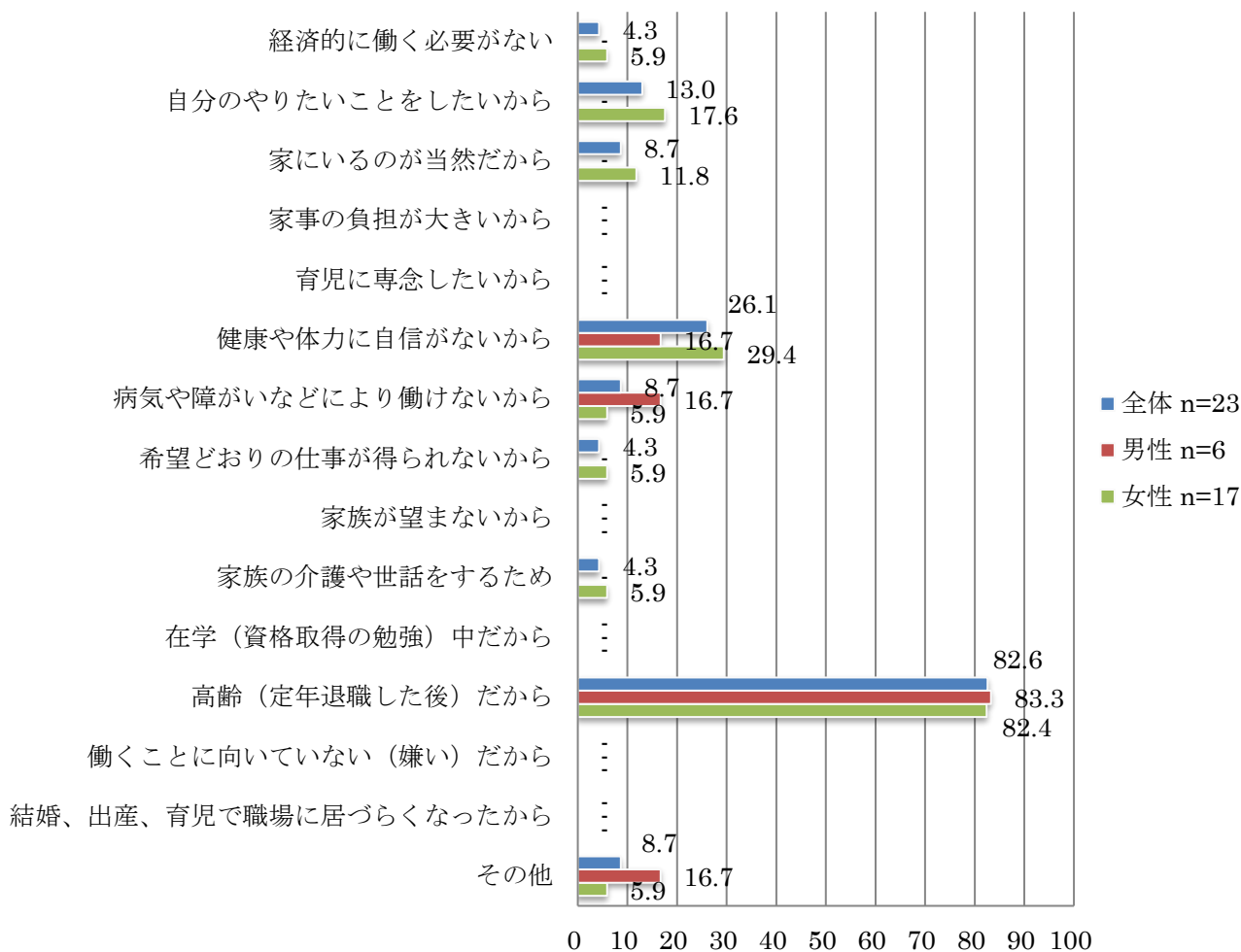
性別で見ると、男性は「企業経営者や職場の理解」が女性に比べて高く、女性は「育児・介護休業などの休暇制度の充実」が男性に比べ高くなっています。

【現在、職業をお持ちでないかたにおたずねします】

問 1 2 あなたが職業をお持ちでないのは、どのような理由からですか。

(あてはまるものすべてに○)

### 職業を持っていない理由



現在、職業をお持ちでない方について、「高齢(定年退職した後)だから」が82.6%で最も高く、次いで「健康や体力に自信がないから」が26.1%、「自分のやりたいことをしたいから」が13.0%となっています。

性別で見ると、男性は「病気や障がいなどにより働けないから」が女性より高く、女性は「自分のやりたいことをしたいから」「健康や体力に自信がないから」が男性より高くなっています。

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
経済的に働く必要がない	0.0	0.0	4.8	5.9	3.0	4.3
自分のやりたいことをしたいから	33.3	0.0	9.5	17.6	18.2	13.0
家にいるのが当然だから	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0	8.7
家事の負担が大きいから	0.0	0.0	23.8	0.0	15.2	0.0
育児に専念したいから	0.0	0.0	4.8	0.0	3.0	0.0
健康や体力に自信がないから	25.0	16.7	14.3	29.4	18.2	26.1
病気や障がいなどにより働けないから	—	16.7	—	5.9	—	8.7
希望どおりの仕事を得られないから	16.7	0.0	0.0	5.9	6.1	4.3
家族が望まないから	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家族の介護や世話をするため	8.3	0.0	9.5	5.9	9.1	4.3
在学（資格取得の勉強）中だから	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高齢（定年退職した後）だから	83.3	83.3	52.4	82.4	63.6	82.6
働くことに向いていない（嫌い）だから	0.0	0.0	4.8	0.0	3.0	0.0
結婚、出産、育児で職場に居づらくなったから	—	0.0	—	—	0.0	0.0
その他	8.3	16.7	9.5	5.9	9.1	8.7

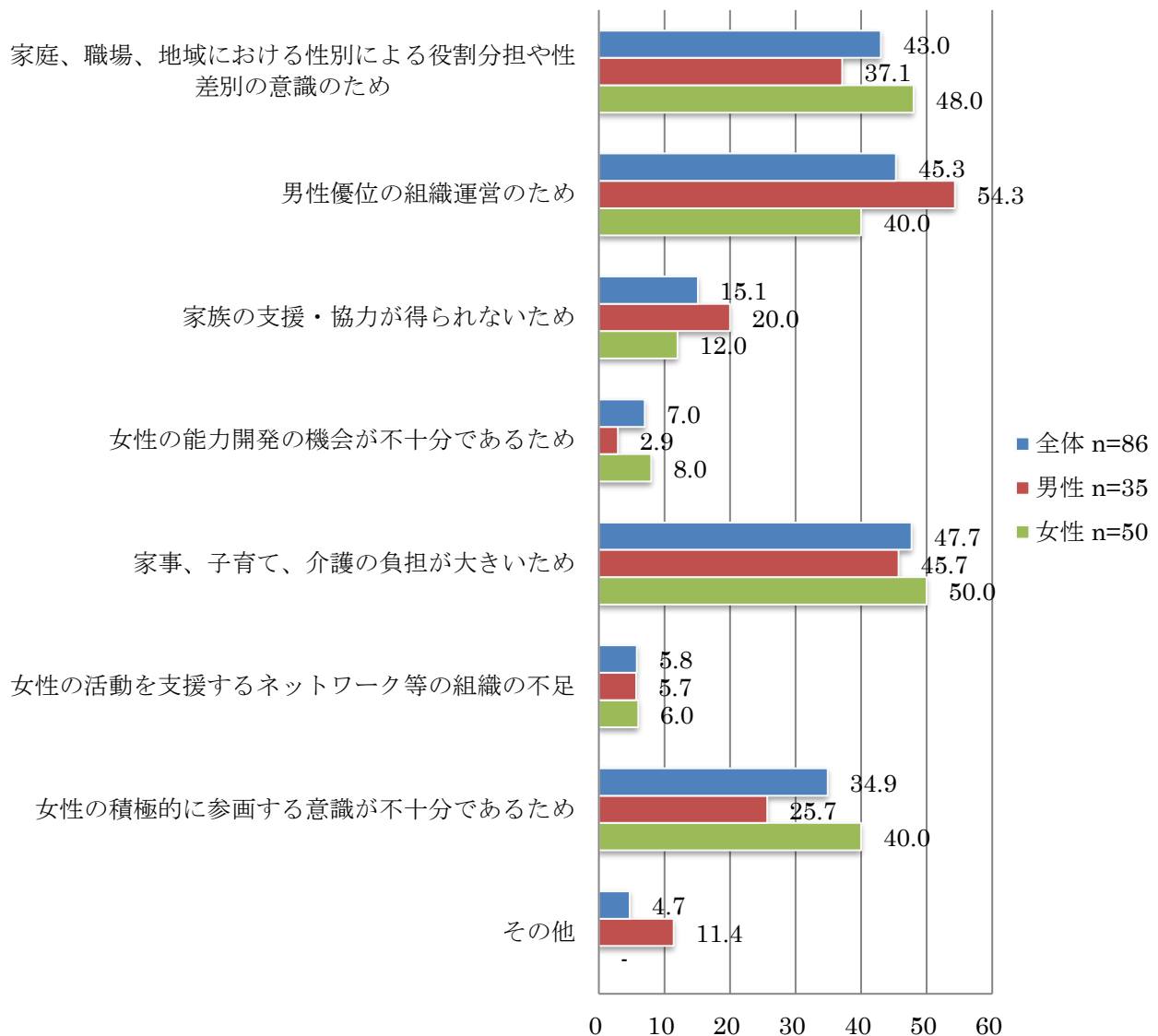
前回の調査と比較すると、「健康や体力に自信がないから」「高齢（定年退職した後）だから」が特に増加しています。

性別で見ると、男性は「自分のやりたいことをしたいから」「希望どおりの仕事を得られないから」が特に減少しています。女性は「自分のやりたいことをしたいから」「家にいるのが当然だから」「健康や体力に自信がないから」「高齢（定年退職した後）だから」が特に増加しており、また「家事の負担が大きいから」は大幅に減少しています。

## 男女共同参画社会について

問13 政治や行政、自治会や町内会において、政策の企画や方針を決める場に女性の参画が少ない理由はなんだと思いますか。（3つ以内に○）

方針決定過程に女性の参画が少ない理由（全体・性別）



政治や行政、自治会や町内会において、政策の企画や方針を決める場に女性の参画が少ない理由について、「家事、子育て、介護の負担が大きい」が47.7%と最も高く、次いで「男性優位の組織運営のため」が45.3%、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識のため」が43.0%となっています。

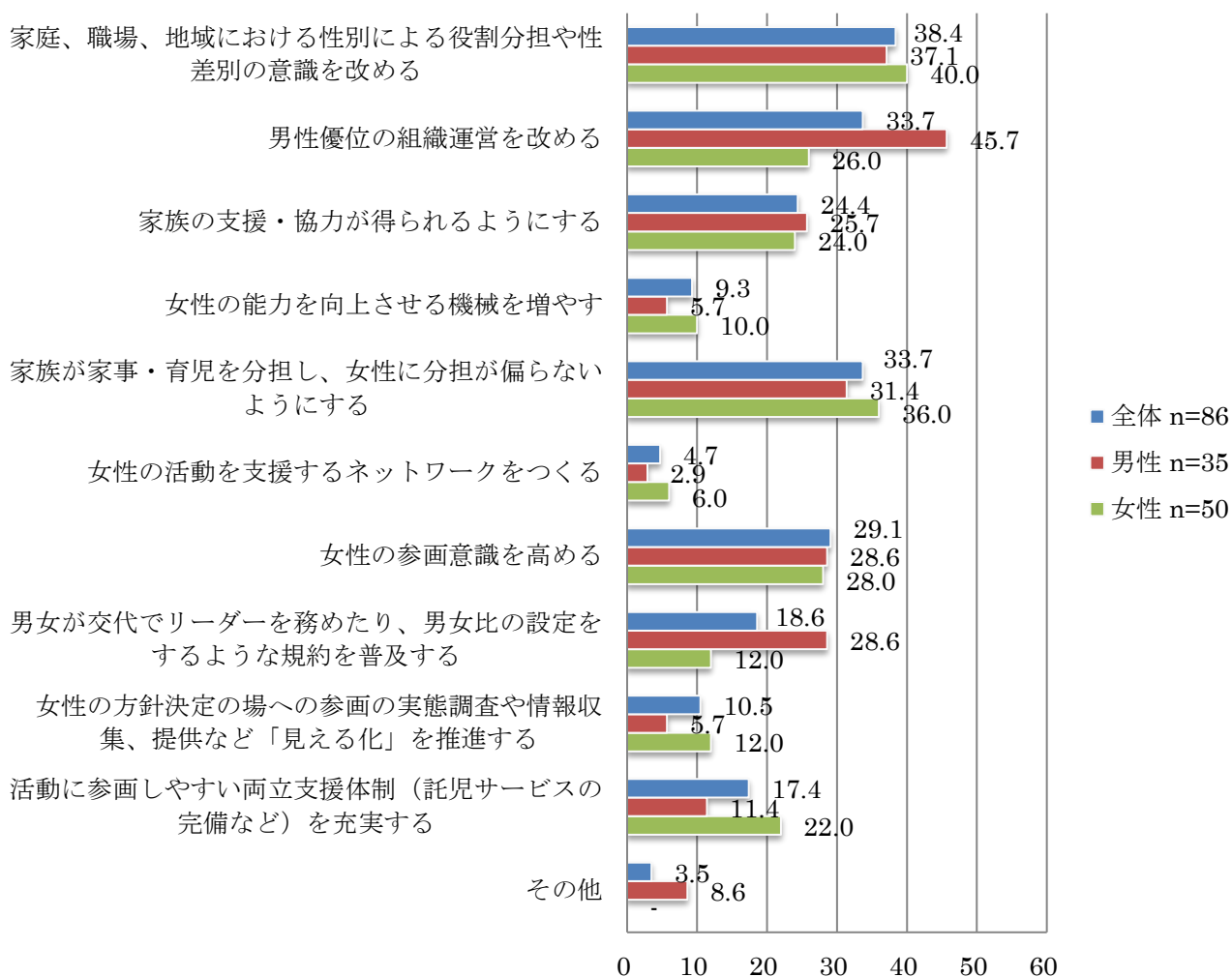
	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
家庭、職場、地域における性別による 役割分担や性差別の意識のため	40.5	37.1	29.3	48.0	34.6	43.0
男性優位の組織運営のため	37.8	54.3	36.6	40.0	37.2	45.3
家族の支援・協力が得られないため	13.5	20.0	14.6	12.0	14.1	15.1
女性の能力開発の機会が不十分であるため	18.9	2.9	14.6	8.0	16.7	7.0
家事、子育て、介護の負担が大きい ため	37.8	45.7	65.9	50.0	52.6	47.7
女性の活動を支援するネットワーク等の組織の不足	8.1	5.7	7.3	6.0	7.7	5.8
R3：女性の積極的に参画する意識が不十分であるため (前回：女性自身の積極性が不十分であるため)	45.9	25.7	43.9	40.0	44.9	34.9
その他	2.7	11.4	0.0	0.0	1.3	4.7

性別及び前回調査の結果と比較してみると、男性は「男性優位の組織運営のため」が54.3%、女性は「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識のため」が48.0%で、それぞれ前回調査に比べて最も増加しています。

また、男性は「女性の能力開発の機会が不十分であるため」「女性の積極的に参画する意識が不十分であるため」が大幅に減少して、女性は「家事、子育て、介護の負担が大きい  
ため」が大幅に減少しています。

問14 政治や行政、自治会や町内会において、政策の企画や方針を決める場に女性が参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つ以内に○）

### 女性が参画していくために必要なこと



政治や行政、自治会や町内会において、政策の企画や方針を決める場に女性が参画していくために、必要なことについて、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識を改める」が38.4%で最も高く、次いで「男性優位の組織運営を改める」「家族が家事・育児を分担し、女性に分担が偏らないようにする」が33.7%となっています。

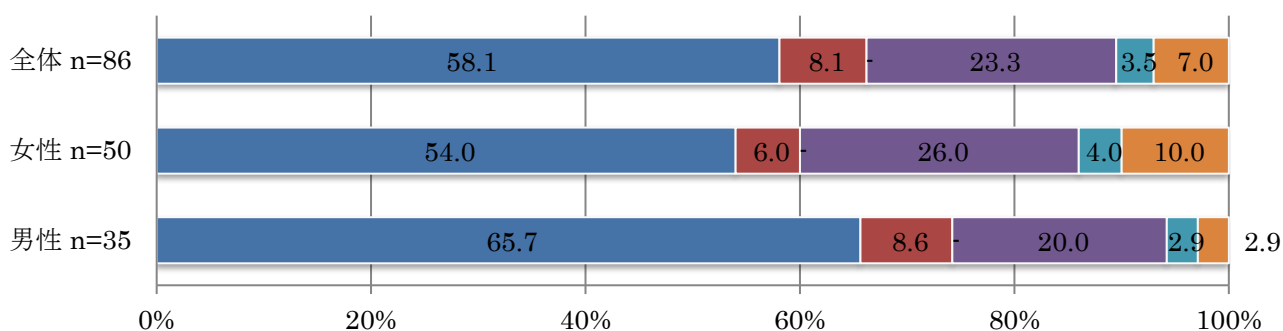
問 1 5 男女共同参画社会について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。

(1つだけに

○)

### 男女共同参画社会の考え方 (全体・性別)

- 男女共同参画社会の実現を目指して、取り組む必要があると思う
- 男女共同参画社会はすでに実現されているので、特に取り組む必要はないと思う
- 男女共同参画社会の考え方に賛成できないので、特に取り組む必要はないと思う
- わからない
- その他
- 無回答



男女共同参画社会についての考えについて、「男女共同参画社会の実現を目指して、取り組む必要があると思う」の割合が58.1%で最も高くなっています。

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
男女共同参画社会の実現を目指して、取り組む必要があると思う	67.4	65.7	50.9	54.0	58.3	58.1
男女共同参画社会はすでに実現されているので、特に取り組む必要はないと思う	7.0	8.6	5.7	6.0	6.3	8.1
男女共同参画社会の考え方に賛成できないので、特に取り組む必要はないと思う	7.0	0.0	28.3	0.0	18.8	0.0
わからない	7.0	20.0	1.9	26.0	4.2	23.3
その他	11.6	2.9	13.2	4.0	12.5	3.5

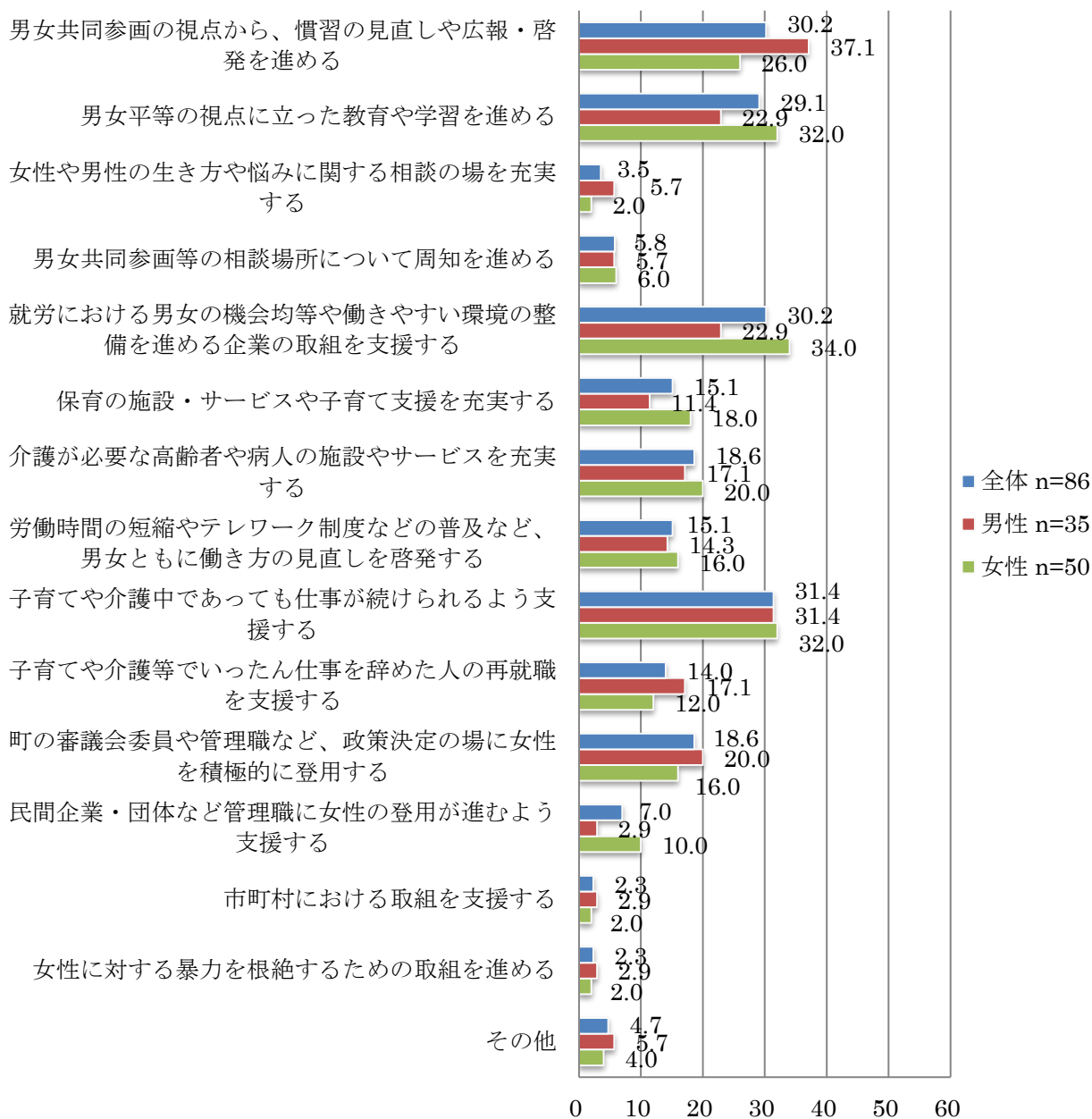
性別及び前回調査の結果と比較してみると、男性・女性ともに「男女共同参画社会の実現を目指して、取り組む必要があると思う」が最も高くなっています。

また、「男女共同参画社会の考え方に賛成できないので、特に取り組む必要はないと思う」の回答は減少し、回答者なしとなっています。



問16 「男女共同参画社会」を実現するために、若桜町の取組として、特にどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(3つ以内に○)

### 行政が力を入れるべきこと (全体・性別)



「男女共同参画社会」を実現するために、若桜町が力を入れていくべきことについて、「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」が31.4%と最も高く、次いで「男女共同参画の視点から、慣習の見直しや広報・啓発を進める」「就労における男女の機会均等や働きやすい環境の整備を進める企業の取り組みを支援する」がともに30.2%となっています。

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
男女共同参画の視点から、慣習の見直しや広報・啓発を進める	37.8	37.1	28.3	26.0	32.5	30.2
男女平等の視点に立った教育や学習を進める	13.5	22.9	28.3	32.0	21.7	29.1
女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を充実する	2.7	5.7	8.7	2.0	6.0	3.5
男女共同参画等の相談場所について周知を進める	—	5.7	—	6.0	—	5.8
就労における男女の機会均等や働きやすい環境の整備を進める企業の取組を支援する	35.1	22.9	30.4	34.0	32.5	30.2
保育の施設・サービスや子育て支援を充実する	18.9	11.4	23.9	18.0	21.7	15.1
介護が必要な高齢者や病人の施設やサービスを充実する	43.2	17.1	37.0	20.0	39.8	18.6
R3：労働時間の短縮やテレワーク制度などの普及など、男女ともに働き方の見直しを啓発する (前回：労働時間の短縮や休暇の取得など、働き方の見直しを啓発する)	18.9	14.3	15.2	16.0	16.9	15.1
子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する	24.3	31.4	32.6	32.0	28.9	31.4
子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	24.3	17.1	30.4	12.0	27.7	14.0
町の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する	10.8	20.0	6.5	16.0	8.4	18.6
民間企業・団体など管理職に女性の登用が進むように支援する	—	2.9	—	10.0	—	7.0
R3：市町村における取組を支援する (前回：個人やNPO等における取組を支援する)	5.4	2.9	4.3	2.0	4.8	2.3
女性に対する暴力を根絶するための取組を進める	—	2.9	—	2.0	—	2.3
その他	8.1	5.7	8.7	4.0	8.4	4.7

性別及び前回調査の結果と比較してみると、男性は「男女平等の視点に立った教育や学習を進める」「町の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」が特に増加して、女性は「町の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」が特に増加しています。

一方、全体として「介護が必要な高齢者や病人の施設やサービスを充実する」「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が大幅に減少しています。

また、男性は「男女共同参画の視点から、慣習の見直しや広報・啓発を進める」が最も高く、女性は「就労における男女の機会均等や働きやすい環境の整備を進める企業の取組を支援する」が最も高くなっています。

問17 男女共同参画についてあなたが日頃感じていることや、若桜町の男女共同参画の推進に関する取組についてのご意見などがあれば自由にお書きください。また、記述内容にあてはまるキーワード（分野）があれば、次の中から選んでください。

キーワード（分野）

**【地域社会】**

○奉仕活動が以前に比べ少なくなった。異常な自然現象（暴風、豪雨、コロナ発生）で環境が大変化。高齢になると社会奉仕をしたくても力が無いので出来ない。道路の整備業者さんが請け負うと、コンクリート舗装はされるが、すぐそばの雑木雑草は手を付けない人も多いと思う。

○男性が家庭を守り、女性が仕事で稼いでくるという形が当たり前になれば、男女共同参画社会の形成が出来たことになると考えている。男女の適した役割はあるものの、その仕事に見合った給料設定も必要になると思う。女性が意見を出しやすい社会（町）にしていければ近づいて行くのだろうと考える。

**【働く場】**

○世代が違ふと考え方も変わると思うが、未だに職場においては男性優位と感じる場面が多い。官公庁では女性の管理職も多いが、私の勤務している法人では管理職はほぼ男性で主任クラスまでは女性もいるが、管理職は男性。子育て、介護があること、家事もあるので難しいのだろうけど「女性の意見は長いから、会議が長引く」的に男性だけ一分少数の「意見を言わない人」で大事なことが決定されている。女性も陰で不平を言う。もっと性差の特徴を勉強し直すことが必要か。職場へのアンケートをして啓発してみたらどうか。

**【子育て】**

○お母さんと子どもは（実子の場合）へその緒で繋がっている時から、それが切れても心は強く繋がらなければいけません。父方では出来ない愛情の受け渡しを遮るようなことにならぬようにしなければなりません。人として女性、男性で違ふ生物なのでその部分で共同を無理なく出来ればと思います。

**【その他】**

○現在、男性に偏っているから男女の割合が気になるころだが、本来、男女に関係なく人物を見て判断すべきと考える。但し、これまでに能力を開発するための機会を男女平等に与えられてきたのかと考えた時、与えられず、能力が無い状態であることも事実である。そう考えると経験する機会（チャンス）を平等に与えることに重点を置いてほしい。

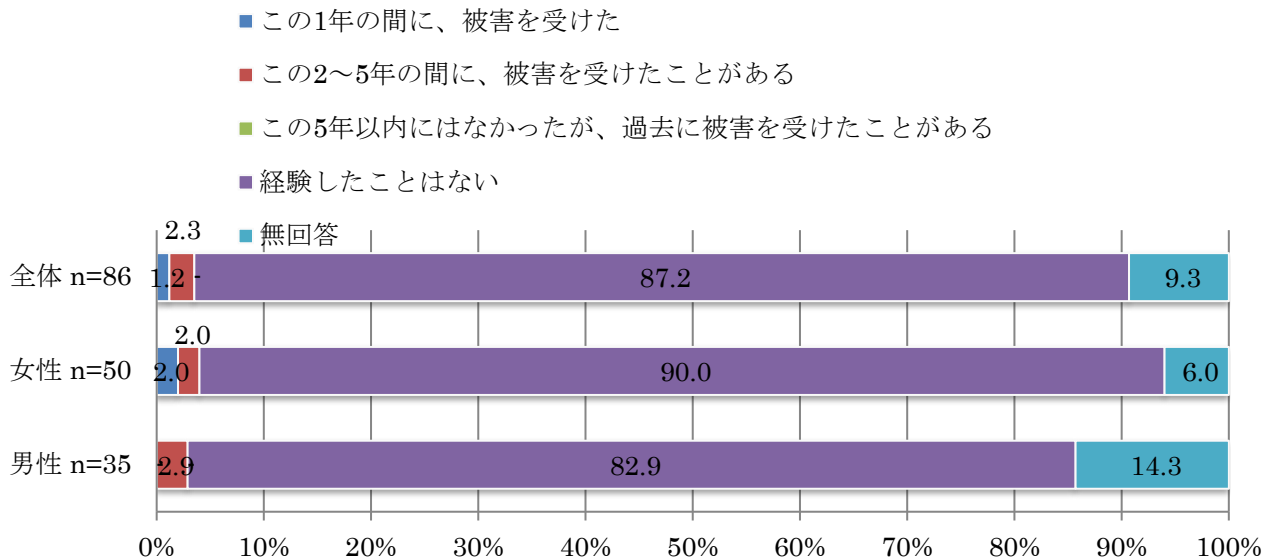
【キーワード選択なし】

- 制度としては、男女共同参画が推進されていると思うが、男女とも個人の意識に課題があると感じている。基本的に同姓で群れたがるので、政策決定等の場で共同参画を実現するには構成等のある程度、強制的に半々にするなどが必要かもしれない。
  
- 男女共同という性別で括ること事体に違和感があります。
  
- 職場で逆に男性の方が負担、責任が重いと感ずることがある。産休によって昇進が遅れるのは違うと思う。一日のうち、どれだけ自由時間があるか、その自由時間は性別を理由に差があつてはいけないと思う。若い世代よりも年配の意識が問題。
  
- 仕事と家庭を両立出来ないのに、無責任に女性に役職を与えるのはどうかと思う。皆がきちんと理解し合つて、役割を果たしていけるよう希望します。
  
- 男性、女性に関わらず、自立して生活していけるように一人一人が就労し、社会の一員として貢献することが必要。男女に関係なく、子育て、介護、政治参加と自立した大人であれば当たり前のように行うことが出来るよう考え方を改める必要がある。
  
- 家で元来で女性の仕事とされてきた家事、育児、介護等、近年は男女関係なく分担されているように思う。70才近い私も、昼間は仕事に出、朝夜は家事、育児、子供に手がからなくなつたら、まもなく介護が始まつた。さらに休日は農業の手伝いがあり、布団の中に入った時がやつと自分の時間であつた。当然、すべての女性のすべきことと思つていた。昭和の我々の時代は「男女共同参画社会」という言葉がなかなか理解できなかつた。現在、女性が社会に進出しようとするれば「生意気だ!」「家をほつたらかしにして!」・・・と昭和の時代の人々は杭を打つ。やはり男女の平等を勉強し、事業所も男性の介護、育児をしっかり理解すべきではないか。

## 男女間における暴力について

問18 配偶者や交際相手から身体的・精神的な暴力等を受ける「ドメスティック・バイオレンス（DV）」に関して、あなたは暴力の被害を受けたことがありますか。

### DVの被害経験（全体・性別）



配偶者や交際相手から身体的・精神的な暴力を受ける「ドメスティック・バイオレンス（DV）」の被害経験について、「この1年の間に、被害を受けた」が1.2%、「この2～5年の間に、被害を受けたことがある」が2.3%となっています。

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
この1年の間に、被害を受けた	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	1.2
この2～5年の間に、被害を受けたことがある	2.3	2.9	0.0	2.0	1.0	2.3
この5年以内にはなかったが、過去に被害を受けたことがある	0.0	0.0	5.7	0.0	3.1	0.0
経験したことはない	79.1	82.9	77.4	90.0	78.1	87.2
無回答	18.6	14.3	16.9	6.0	17.7	9.3

性別及び前回の調査と比較してみると、女性は「この1年の間に、被害を受けた」「この2～5年の間に、被害を受けたことがある」は増加して、全体としてもそれぞれ増加しており、鳥取県の結果より高くなっています。（鳥取県：「この1年の間に、被害を受けた」0.6%、「この2～5年の間に、被害を受けたことがある」1.9%）

一方、「経験したことはない」は男性・女性ともに増加しています。（鳥取県：「経験したことはない」91.2%）

問18-1 その時あなたは、だれかに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

友人・知人に相談した

どこ(だれ)にも相談しなかった

問18-2 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。

(あてはまるものすべてに○)

どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかった

相談してもむだだと思ったから

自分がかまんさえすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから

自分に悪いところがあると思ったから

問19 あなたはこれまでに、性暴力(同意のない・対等でない・強要された性的行為)を受けたことがありますか。(1つだけに○)

2回以上あった

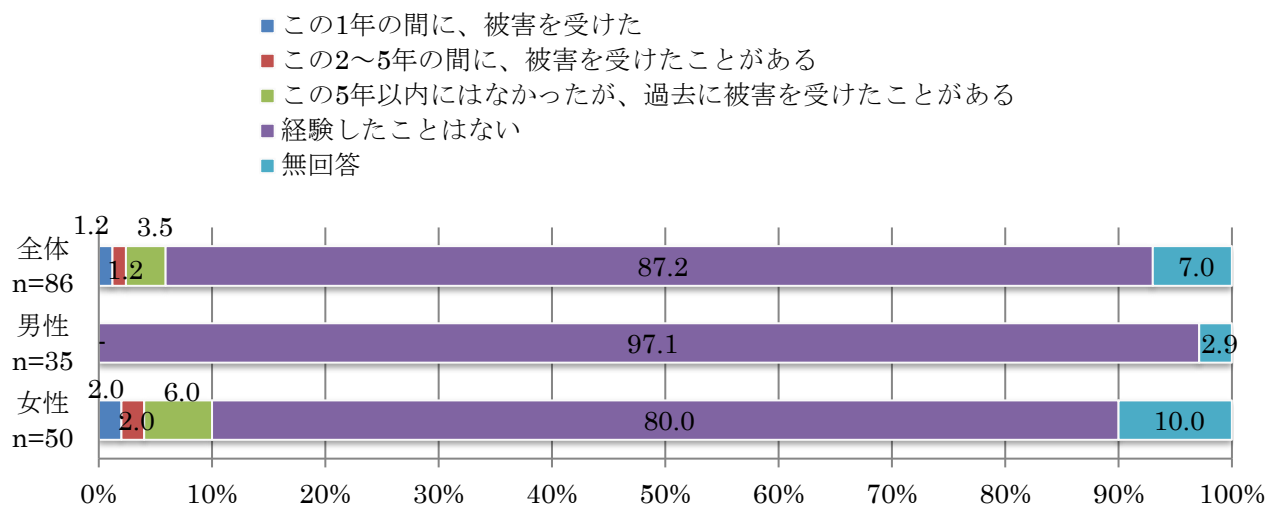
問19-1 あなたはその被害について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。

(1つだけに○)

友人・知人に相談した

問20 同じ人につきまったり、執拗に電話をかけるなどの、いわゆるストーカー行為に関して、あなたは被害をうけたことがありますか。(1つだけに○)

### ストーカー行為の被害を受けたことがあるか



ストーカー行為の被害経験について、「この5年以内にはなかったが、過去に被害を受けたことがある」が3.5%、「この1年の間に、被害を受けた」「この2～5年の間に、被害を受けたことがある」がともに1.2%となっています。

また、女性の10.0%がストーカー被害をうけた経験があります。

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
この1年の間に、被害を受けた	2.3	0.0	1.9	2.0	2.1	1.2
この2～5年の間に、被害を受けたことがある	0.0	0.0	1.9	2.0	1.0	1.2
この5年以内にはなかったが、過去に被害を受けたことがある	2.3	0.0	5.7	6.0	4.2	3.5
経験したことはない	65.1	97.1	71.7	80.0	68.8	87.2
無回答	30.2	2.9	18.9	10.0	24.0	7.0

性別及び前回の調査と比較してみると、全体として「この1年の間に、被害を受けた」は減少しています。また、「経験したことはない」は男性・女性ともに増加しています。

問20-1 その時あなたは、警察などの相談機関に相談しましたか。(1つだけに○)

○相談しなかった・・・100%

問20-2 相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

○相談しても無駄だと思ったから

○相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどくなると思ったから

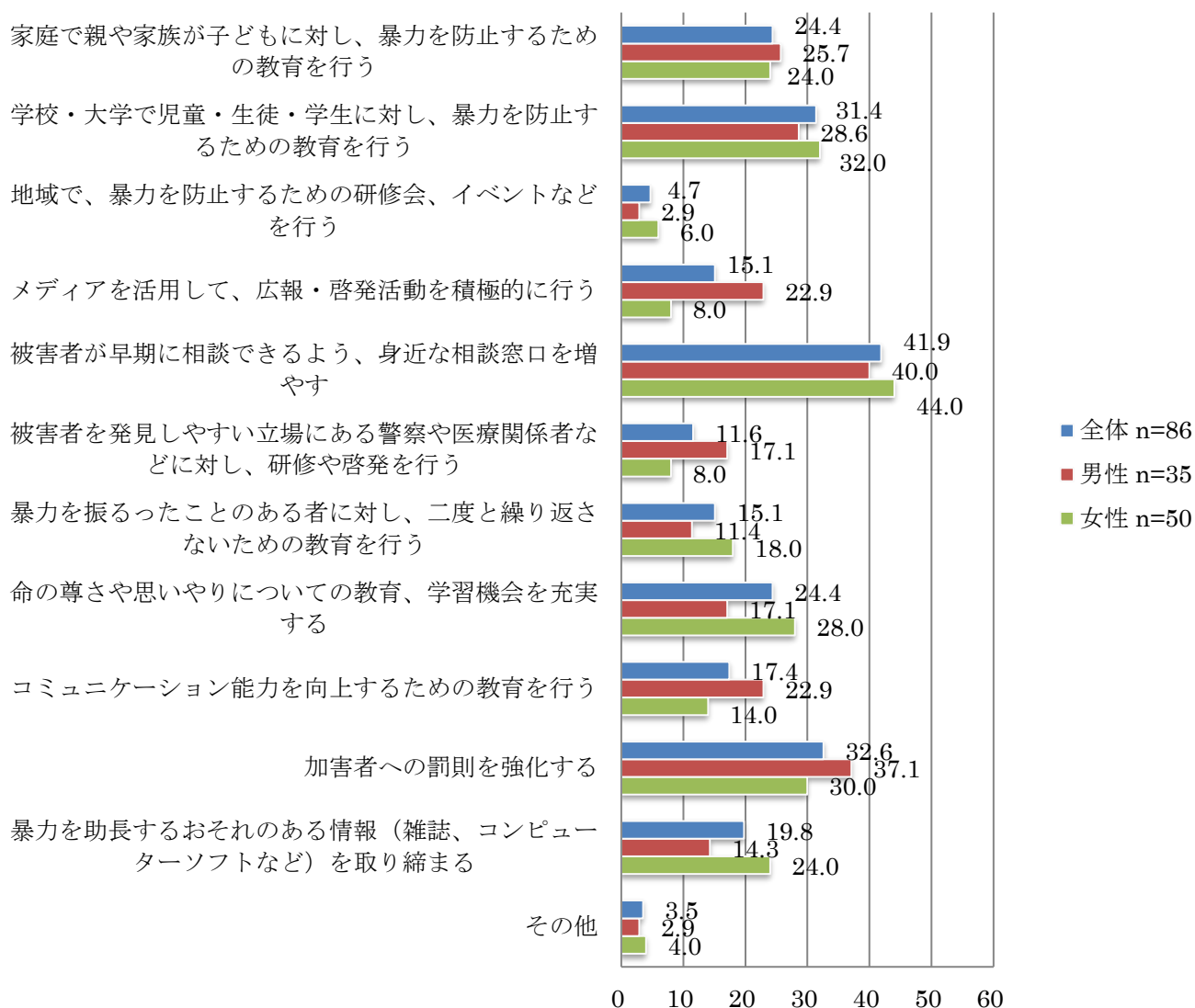
○自分がかまんさえすれば、なんとかやっていけると思ったから

○そのことについて思い出したくなかったから



問2 1 男女間における暴力をなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(3つまでに○)

### 男女間における暴力をなくすために必要なこと



男女間における暴力をなくすために必要なことについて、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が41.9%と最も高く、次いで「加害者への罰則を強化する」が32.6%、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」が31.4%となっています。

	男性		女性		全体	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
家庭で親や家族が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	28.1	25.7	31.8	24.0	30.3	24.4
学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	18.8	28.6	34.1	32.0	27.6	31.4
地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	12.5	2.9	2.3	6.0	6.8	4.7
メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	12.5	22.9	4.5	8.0	7.9	15.1
被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	46.9	40.0	50.0	44.0	48.7	41.9
被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	6.3	17.1	4.5	8.0	5.3	11.6
暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	15.6	11.4	15.9	18.0	15.8	15.1
命の尊さや思いやりについての教育、学習機会を充実する	28.1	17.1	36.4	28.0	32.9	24.4
コミュニケーション能力を向上するための教育を行う	18.8	22.9	18.2	14.0	18.4	17.4
加害者への罰則を強化する	28.1	37.1	20.5	30.0	23.7	32.6
暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を取り締まる	18.8	14.3	20.5	24.0	10.5	19.8
その他	6.3	2.9	2.3	4.0	3.9	3.5
特になし	3.1	0.0	11.4	0.0	7.9	0.0

性別及び前回調査の結果と比較してみると、男性・女性ともに「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が最も高くなっています。

また、男性は「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」「被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対して、研修や啓発を行う」が大幅に増加し、女性は「加害者への罰則を強化する」が大幅に増加しています。

